

2019 年度 シラバス

リハビリテーション学科
理学療法専攻

授業科目名		担当教員		
生物学		江村 正一		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> すべての生物の基本構造である「細胞」についての理解をもとに、遺伝、発生、生命の進化と多様性などについて学び「生命」とは何かを考える。生物学で得た知識と理解が、将来、医療に携わるために修めなければならない、他の多くの科目の基礎となる。特に解剖学と生理学の学習にとって直接関係のある事象が多く出て来ますので、その部分については特に理解を深めてください。</p> <p><学修の到達目標> 細胞・組織について理解できる。 遺伝・発生について理解できる。 進化・多様性について理解できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書の該当する部分を丁寧に読み、それぞれの章で何を学べばよいのか、何を学びたいかを、記録しておく。 <必要時間> 各回60分</p>		<p><内容> 事前学習で疑問に思ったことは理解・納得できたかを確認する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	細胞とその構造について			
2	細胞膜の構造と機能について			
3	細胞の増殖について			
4	遺伝情報とその伝達について			
5	ヒトの遺伝と先天性異常について			
6	生殖について			
7	発生について			
8	呼吸系・消化系について			
9	循環系・免疫系について			
10	神経系について			
11	内分泌系について			
12	生命の進化と多様性について			
13	ヒトの起源と進化について			
14	生物と環境について			
15	人体の仕組みを学ぶことから生命とは何かを理解する			
	定期試験(レポート)			
評価基準・評価方法				
定期試験結果(100%)				
使用教科書				
系統看護学講座 生物学 / 高畑ほか.--第10版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03189-9				
参考図書				
適宜、参考資料を配布する。				
備考				
レポートにコメントを記入し返却する。 E-mail s.emura@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員		
物理学		中村 琢		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> この授業は物理学の様々な分野について短期間で概観的に学習するものである。特に看護やリハビリテーションなど医療・看護の職に就く際には物理学の知識は必須であり、本授業では現場で働く際に役に立つ物理学の原理、原則についても扱う。後半では放射線についても扱い、実習を含める。授業の形態は座学だけでなく、グループワークなど、学習者の主体的な学び(アクティブラーニング)を取り入れる。</p> <p><学修の到達目標> 物理学の学習内容について理解し、自分の言葉で説明できる。 学習した内容を活用して計算、思考、探究することができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 毎回の授業で次の授業の内容と予習の方法について指示します。必要に応じて資料を配布するので目を通してください。 <必要時間> 各回10分</p>		<p><内容> 授業でわからなかったことを次の授業で質問できるように復習してください。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	物理学の基礎知識			
2	自然界の階層性			
3	力学の基礎 1			
4	力学の基礎 2			
5	力学の基礎 3			
6	波動 1			
7	波動 2			
8	光と音の性質			
9	電気と磁気			
10	電流と電圧			
11	原子と原子核			
12	放射線の性質			
13	放射線の利用と被ばく			
14	放射線の測定			
15	放射線被ばく防護			
	定期試験 筆記			
評価基準・評価方法				
知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度の観点から総合的に判断する。 定期試験(50%)、時間内レポート・課題(30%)、授業参加度(20%)				
使用教科書				
使用教科書はありません				
参考図書				
自然科学の基礎としての物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 2014年, 体系看護学 基礎科目 物理学, 平田雅子, メヂカルフレンド社, 2006年				
備考				
<p>1. オフィスアワー: 講義終了後20分程度。 2. 質問等: 講義時間中に受け付けます。 3. 電子メールアドレス: nakamura@gifu-u.ac.jp</p>				

授業科目名		担当教員		
化学		武藤 吉徳		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎として非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するよう努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。</p> <p><学修の到達目標> 生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。 主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。 医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 高校で学んだ理系科目(生物、化学、物理等)があれば、その復習をする。また、教科書を予習する。 <必要時間> 各回60分</p>		<p><内容> 教科書とノートを再読することにより、基礎事項や専門科目との関連性を再確認する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	物質の特性			
2	原子と分子			
3	化学結合			
4	物質の三態・溶液とコロイド			
5	塩化物			
6	酸・アルカリ			
7	無機化合物			
8	放射性元素			
9	有機化合物概要			
10	脂肪族炭化水素			
11	酸素、窒素を含む有機化合物			
12	カルボン酸、その他			
13	芳香族化合物			
14	脂環・複素環化合物			
15	生体物質			
	定期試験 筆記			
評価基準・評価方法				
定期試験(100%)				
使用教科書				
系統看護学講座基礎分野「化学」 / 奈良雅之.--第7版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03181-3				
参考図書				
舟橋弥益男・渡辺昭次 著 「炭素化合物の世界」東京教学社				
備考				
授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。				

授業科目名		担当教員		
情報科学		加藤 直樹		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 情報科学において基礎となるデジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として、情報システムを活用した仕事の効率化、質の向上について検討するとともに、情報システム活用における人工知能、ビッグデータの活用について調査し交流する。また、問題解決に情報手段を活用するための能力を身につける。</p> <p><学修の到達目標> 情報社会の特徴を深く理解し、将来の社会像や働き方、生活等を具体的に描いて論述できる。 情報手段を効果的に活用して主体的に学び、課題解決を効果的に推進することができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 次回の内容について情報検索や図書等で調査してclassroomに概要を報告すること。 <必要時間> 各回20分</p>		<p><内容> 学習を振り返り学べたこと(学べなかったこと)をclassroomに記述する。必要に応じて課題に取り組むこと。 <必要時間> 各回40分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	情報の生成・伝達・変換・蓄積・利用とコンピュータおよび通信ネットワーク, classroomの利用			
2	Society 5.0が描く情報社会の現在と未来を知る			
3	情報社会におけるデータ活用をコンビニエンスストアから読み解く			
4	医療の情報化の進展を調査しペアワークして事例を分析しレポートする (classroomによる課題提出)			
5	事例分析の結果交流を基礎としながら無線通信を活用するこれからの医療について検討する			
6	情報技術を活用した共同作業をプレゼンテーション作成に応用する (classroom上での共同作業)			
7	情報技術に支えられる自動車の進化から身近な生活への影響を調査する			
8	自動運転車に関するWhat, How, Why を調査して整理する			
9	人工知能に関する情報を収集し情報化の光と影について検討する			
10	情報社会への備えについて調査フォームを作成する			
11	調査フォームの結果を表計算で集計してグラフ化する			
12	人工知能に関する検討および調査の結果を小論文として文書作成する			
13	デジタルオーディオの秘密から人と情報技術の関係について検討する			
14	クラウドコンピューティングのWhat, How, Whyを調査し意見交流する			
15	クラウドコンピューティングの活用による生活や仕事の変化を予想する			
	レポート			
評価基準・評価方法				
知識・理解は、授業中の対話状況、質疑応答等での評価と数回の小レポートで評価する。(30%) 情報手段の活用及び態度は、classroom利用状況、課題提出、成果物で評価する。(20%) 思考・判断は、授業中の対話、レポートにおける論述における批判的思考に基づく論理展開の深さで評価する。(50%)				
使用教科書				
なし				
参考図書				
情報科学基礎-コンピュータとネットワークの基本, 伊東俊彦, ムイスリ出版, 2015				
備考				
授業では資料配布, 課題提出・評価等はGoogle classroomを用いて実施し, 教師と学生, 学生相互のコミュニケーションに活用する。 授業時間以外にもコミュニケーションのためにclassroomへのアクセスが必要となる。				

授業科目名		担当教員		
人間工学		山田 宏尚		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。</p> <p><学修の到達目標> 人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。 実際の医療福祉の現場において、物理学的根拠に基づく治療行為を実践できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。 <必要時間> 各回 40分</p>		<p><内容> 教科書、授業内容を書き留めたノート、小テストの結果などを用いて復習する。また、必要に応じて参考書を読み、授業内容の理解を深める。 <必要時間> 各回 40分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	ガイダンス			
2	重いものを持つにはどうしたらよいか(1)			
3	重いものを持つにはどうしたらよいか(2)			
4	看護ボディメカニクスの物理(1)			
5	看護ボディメカニクスの物理(2)			
6	身近な圧力(1)			
7	身近な圧力(2)			
8	力・モーメントの応用			
9	呼吸器と吸引の物理			
10	点滴静脈内注射の物理			
11	循環器の物理			
12	感覚器の物理(1)			
13	感覚器の物理(2)			
14	体温制御の物理			
15	圧力・感覚・熱の応用	・へ到達		
	定期試験 筆記			
評価基準・評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準：知識の修得度と計算能力(目標)、応用的思考能力(目標) ・評価方法：定期試験(70%)、小テスト・宿題・授業態度(30%)で評価する。 				
使用教科書				
看護学生のための物理学 / 佐藤和良.--第5版--医学書院, 2014年, ISBN978-4-260-02051-0				
参考図書				
適宜紹介する。				
備考				
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で小テストを実施し、随時課題を課す。 ・オフィスアワー：講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。 ・質問：講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール(yamada@gifu-u.ac.jp)で随時受け付ける。 				

授業科目名		担当教員		
環境と人間		杉原 利治		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、21世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。</p> <p><学修の到達目標> 受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。 既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> それぞれの授業時間で扱う、教科書の各章を事前に読む。 <必要時間> 各回20分</p>		<p><内容> 授業時に配布されたプリントを読む。 <必要時間> 各回20分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	環境問題とは何か？			
2	環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。			
3	家庭生活から環境問題の本質を探る。			
4	衣生活から環境を考える。			
5	食生活から環境を考える。			
6	簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。			
7	河川環境と人間の関係を考える。			
8	情報から環境と人間を考える。			
9	情報環境が人間をつくる。			
10	脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。			
11	環境教育のあり方を考える。			
12	アーミッシュと現代社会を比較する。			
13	近代のライフスタイルを再考する。			
14	生態学の意味を考える。			
15	環境と情報から、持続可能な社会を展望する。			
	定期試験(レポート)			
評価基準・評価方法				
<p>評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。 評価方法は、レポート(50%)、小レポート・小テスト(30%)、授業態度等(20%)による。</p>				
使用教科書				
21世紀の情報とライフスタイル / 杉原利治. 論創社, 2001年, ISBN978-4-8460-0261-9				
参考図書				
備考				
<p>毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。</p>				

授業科目名		担当教員		
社会学		伊原 亮司		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである<働くこと>に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から<働くこと>を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされる。本講義は、現代社会における労働の現実を理解し、自分たちの働き方を見直すことを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や過労死から自分の身を守る術を習得して欲しい。</p> <p><学修の到達目標> 1. 現代社会における働く場の実態を理解できる 2. その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいのか、分析枠組みを理解することができる 3. 自分自身で職場の実態を捉えられるようになる 4. <働くこと>に対する自分のスタンスを考えることができる 5. その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 今回の講義で学ぶ章を指定するので、事前に読んでおくこと。 <必要時間> 各回120分</p>		<p><内容> 講義で学んだことを新聞やテレビのニュースなどと照らし合わせて、他の事例を理解すること <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	イントロダクション - <働くこと>とは			
2	従来の社会と働き方 - 「日本の経営」と「企業社会」			
3	労働社会の変容 - 学校、会社、家庭の関係			
4	働く場の実態 - 過労死・過労自殺			
5	組織や役割への過剰適応			
6	働く場の実態 - 「うつ病」			
7	感情労働の特質			
8	働く場の実態 - 「ハラスメント」			
9	経営合理化と過度のプレッシャー			
10	働く場の実態 - 職場秩序の悪化			
11	非正規雇用の増大			
12	新しい働き方とは			
13	社会貢献という働き方			
14	働くということを考え直す			
15	労働を規制する、勤勉さを相対化する			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
授業への参加(20%)、レポート(20%)、テスト(60%)などから総合的に評価。				
使用教科書				
私たちはどのように働かせるのか / 伊原亮司. こぶし書房, ISBN978-4-87559-299-0				
参考図書				
講義中に適宜紹介する。				
備考				

授業科目名		担当教員			
人間関係論		神戸 博一			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 前学期	2単位(30時間)	講義
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> この講義では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係について理解し、より良い人間関係を築くために学びます。まず人間関係の基本的な意義・視点から、職場での人間関係論、生涯にわたる人間発達と人間関係、更に人間関係を構成する自己と他者、人間関係の成立と維持、対立について学びます。次いで人間関係を円滑に進めるために、コミュニケーションの基礎・基本、マスコミ、インターネットなども、最後に、患者さんと対話するスキルとしてコーチングついて学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> テキストの内容について、学生自身が考え、充分に理解し、そこから実践できるレベルを目標とします。</p> <p>人間関係の意義・視点について考えることができる。 職場の人間関係と対処法について理解できる。 生涯の人間発達と人間関係について知り、応用できる。 人間関係の一方である自己が理解できる。 他者が理解できる。 人間関係が成立し、維持するルール、葛藤・対立への対処法を学び、実践できる。 コミュニケーションの基礎・基本が理解できる。 コミュニケーションの種類、その長短が理解できる。 マスコミの基礎、影響について理解できる。 インターネットと人間関係について知る。 コーチングのスキルを会得し患者さんに応用できる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 以下の授業計画は、教科書、テキストの章や節、項目の見出しを記しています。講義の実際の進行に従い、前もって読んでおいて欲しい。特に、当日の予定の節、項目の中では「何が問題、課題となっているのか」を念頭に置いて読むこと。 <必要時間> 各回10分</p>			<p><内容> 講義で配布するノート資料を参照し、「何が問題、課題なのか」、「問題の答えは何か」、「問題から答えまでの論理展開は」、「キーワードの意味」など理解するよう努めること。配布ノート資料の やアンダーラインを付けた節は、繰り返し学習、記憶することをお勧めします。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	シラバスを利用した、成績評価の試験、学習対策、成績評価の基準など、人間関係の意義について				
2	第1章 人間関係の中の自己と他者 - メーヨーのホーソン実験				
3	人間関係の発達 - エリクソンの理論				
4	自己認知 - 自己概念				
5	自己認知 = 自己評価				
6	対人認知 - 印象形成、バイアス				
7	第2章 対人関係と役割 - 成立				
8	対人関係の維持				
9	対人関係の葛藤と対処				
10	第5章 コミュニケーション - 基本				
11	対人コミュニケーション				
12	コミュニケーションの種類 - メリット・デメリット				
13	マスコミュニケーション - 影響・効果				
14	ICTの発達とコミュニケーション				
15	第7章 コーチング - 理論、効果、スキル				
	定期試験 筆記				
評価基準・評価方法					
持ち込み物なしの筆記試験(100%)					
使用教科書					
系統看護学講座基礎分野 人間関係論 / 石川ひろの 他.--第3版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03170-7					
参考図書					
特に指摘しない。教科書の章ごとに、その最後に「参考文献」一覧が提示されているので、必要に応じ、利用する。					
備考					
教科書『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』(石川ひろの編)を利用し、特にその第1章と第2章、第5章を学ぶ。授業の前後の時間帯に非常勤講師室を訪問することをお勧めします。1年後期「コミュニケーション学」がありますが、本講義と内容的なかわりが強く、「事前学習」と位置付けられるでしょう。講義がある程度進展した段階で小テスト(10分ぐらい)を予告し、実施します。この小テストは、持ち込みなしで実施し、次回以降の授業で答案を返却する際、正解や解答、ポイントについて解説します。					

授業科目名		担当教員		
ボランティア論		森田 政裕		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 本講義においては、1990年代中頃より日本社会に普及・定着したボランティア活動について、普及・定着の社会的背景、ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義、ボランティア活動が社会にもつ意味・意義、そしてボランティア活動によって切り拓かれる新たな社会のあり方等について概括的認識を得るとともに、そうした認識に基づいて現代社会の諸問題・課題の解決に主体的・能動的に参画しようとする、ボランティアとしての態度・心構えを形成することを目標とする。</p> <p><学修の到達目標> ボランティア活動について理解する。 ボランティア活動が現代社会においてもっている意味・意義を理解する。 ボランティア活動がボランティア本人にもっている意味・意義を理解する。 ボランティア活動を通じて社会に参画しようとする主体的・能動的な市民としての態度・心構えを形成する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 新聞の地方欄(県内欄)に、県や各市町村レベルで行われているボランティア活動(NPO活動)の記事が載っている。そうした記事に日頃から注意しておいてください。 <必要時間>30分程度</p>		<p><内容> 参考図書を一読しておくことをお勧めする。 <必要時間>30分程度</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	ボランティア活動とは			
2	ボランティア・ボランティア活動の捉え方の変化			
3	ボランティア・ボランティア活動の捉え方の変化の背景 - 福祉国家体制の転換 -			
4	ボランティア・ボランティア活動の捉え方の変化の背景 - 豊かな社会における個人の生き方の変化 -			
5	ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義 - 社会的存在であることの自覚 -			
6	ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義 - 自己発見・自己実現の場 -			
7	ボランティア活動が青少年の人間形成にもつ意味・意義 - 多様な人間関係を経験する場 -			
8	ボランティア活動が青少年の人間形成にもつ意味・意義 - 社会参画の場 -			
9	ボランティア活動が社会にもつ意味・意義 - 社会的問題・課題への取り組みの先駆性 -			
10	ボランティア活動が社会にもつ意味・意義 - 「交換」中心社会の見直しの可能性 -			
11	ボランティア活動とNPO(非営利組織)			
12	ボランティア活動・NPO活動のソーシャル・ガバナンス			
13	ボランティア活動の課題 - ボランティアの責任 -			
14	ボランティア活動の課題 - 社会的評価の難しさ -			
15	ボランティア活動と自分 - 振り返りと今後の展望 -			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
授業への取り組み姿勢(20%)と試験(80%)の総合評価による。 なお、試験についてはノート持込可(コピーノート不可)とする。				
使用教科書				
使用しない				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> 金子郁容『ボランティア-もうひとつの情報社会-』(岩波新書) 経済企画庁『平成12年度国民生活白書-ボランティアが深める好緑-』(内閣府HPトップページの白書・年次報告書からダウンロード可能) 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』(2009年、有斐閣アルマ) 				
備考				
授業終了後、気軽に声をかけてください。				

授業科目名		担当教員		
哲学		竹内 章郎		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	2単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 自由・平等・友愛(共同性)は、近代社会全般の基礎とされるが、この講義では、自由と共同性との関連も重視しながら、平等とはいかなることかの解明を中心に、格差や不平等が広まる現実を根本から(ラディカルに)理解することを目指したい。近代思想史や哲学史の理解も、そのための手段であるという位置づけで、講義をしたいと考えている。</p> <p><学修の到達目標> 大きな問題を根本から考える姿勢を身に着けるために、抽象度の高い言葉を理解しこれをおある程度使えるようにする。 近代思想・近代哲学の基本を一定程度理解できるようにする。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 講義で扱う教科書の部分を事前に読破する <必要時間>各回90分</p>		<p><内容> 講義終了ごとに、その部分の教科書に基づいて復習する <必要時間>各回90分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	ガイダンス(全体の進行について、教科書の使い方など)			
2	現代において平等を問うことの意味<教科書 ~ 頁>			
3	平等はなぜ避難されることが多いのか? 平等の根本的定義(1)<教科書1~14頁>			
4	平等はなぜ避難されることが多いのか? 平等の根本的定義(2)<教科書14~31頁>			
5	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(1)<教科書33~44頁>			
6	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(2)<教科書44~54頁>			
7	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(3)<教科書54~68頁>			
8	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(4)<教科書~68頁>			
9	悪平等はなぜ生まれたのか? 伝統的平等論の意義と問題(1)<教科書69~93頁>			
10	悪平等はなぜ生まれたのか? 伝統的平等論の意義と問題(2)<教科書93~117頁>			
11	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(1)<教科書119~143頁>			
12	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(2)<教科書143~166頁>			
13	新たな平等論の体系の構築に向けて(1)<教科書 167~185頁>			
14	新たな平等論の体系の構築に向けて(2)<教科書185~200頁>			
15	新たな平等論の体系の構築に向けて(3)<教科書200~215頁>			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
授業への取り組みと定期試験の結果による。				
使用教科書				
平等の哲学:新しい福祉思想の扉をひらく / 竹内章郎.大月書店, ISBN9784272430857				
参考図書				
必要に応じて講義中に紹介する。				
備考				

授業科目名		担当教員		
教育学		森田 政裕		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 本講義においては、様々な社会的場面における周囲の他者等との交渉=相互作用を通じて諸個人が意図的ないし無意図的に人間形成を行っていく社会化の過程に着目し、社会・文化的存在としての人間は家庭や学校における教育だけで作り上げられるものではなく、家族・仲間・地域社会・学校・職場等の種々の人間・社会関係を通じて一生涯にわたり形成され続けるものであるという認識を明確にするとともに、そうした認識に基づき社会に積極的に関わり、諸世代の人々及び自分自身の社会化の過程について理解を深めることを目標とする。同時に、教育と呼ばれる意図的な社会化の場面に主体的・能動的に関与しようとする態度・心構えを形成し、教育者の立場から社会に参加していこうとする積極的な態度・心構えを形成することをもう一つの目標とする。</p> <p><学修の到達目標> 教育の概念との対比から、社会化の概念について理解する。 社会化の方法について具体的に理解する。 ライフ・サイクルの各ライフ・ステージにおいて行われる社会化について理解する。 人の一生涯にわたる社会化の過程を通じて人生行路の大筋が定まることの適切な理解の上に、自分自身及び他者の社会化を主体的・能動的にコントロールしようとする態度・心構えを形成する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 新聞の社会面、家庭面、文化面に子供の人間形成にかかわる各種記事が載ることがある。そうした記事に日頃から注意しておいてください。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 現代日本の子どもの社会化の状況に対する危機感から、子どもの社会力形成の必要性をうったえた、参考図書を読むことが望ましい。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	教育の概念			
2	社会化の概念			
3	教育と社会化の概念の重なりとズレ			
4	社会化の方法 - 学習の型の視角から -			
5	社会化の方法 - 役割の学習・内面化の視角から -			
6	社会化の方法 - 役割の学習・内面化と自我形成の視角から -			
7	核家族集団における子どもの基礎的社会的社会化 - 核家族の役割システムの学習・内面化 -			
8	核家族集団における子どもの基礎的社会的社会化 - 口唇依存期・愛情依存期			
9	核家族集団における子どもの基礎的社会的社会化 - 潜在期・成熟期 -			
10	核家族集団における子どもの基礎的社会的社会化 - 近代家族の揺らぎと社会全体による子育て -			
11	仲間集団と子どもの社会化 - 仲間集団の諸類型 -			
12	仲間集団と子どもの社会化 - 仲間集団が子どもの社会化にもつ意義 -			
13	学校・学級集団と子どもの社会化 - 学校の社会化機能 -			
14	学校・学級集団と子どもの社会化 - 学校の人材の選別・配分機能 -			
15	生涯学習・生涯教育の理念と生涯学習社会の実現			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
授業への取り組み姿勢(20%)と試験(80%)の総合評価による。 なお、試験についてはノート持込可(コピーノート不可)とする。				
使用教科書				
使用しない				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・門脇厚司『子どもの社会力』(岩波新書) ・門脇厚司『社会力を育てる-新しい「学び」の構想-』(岩波新書) 				
備考				
授業終了後に、気軽に声をかけてください。				

授業科目名		担当教員		
心理学		大井 修三		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 心理学を正しく理解していると、人と人が関わる場所では、相手の理解に強力な武器となる。なぜなら、心理学は他者理解の学問だからである。医療従事者と患者さん、医療従事者同士、日常の人間関係など。しかし、「心理学」という言葉は知っていても、心理学を正しく理解している人はなかなかいない。それは、心理学をきちんと勉強した人がなかなかいないということである(授業1)。そこで本授業では、相手の心を理解するということはどういうことか(授業2,3,4,5,6,7)、一人一人違うということはどういうことか(授業8,9,10,11)、相手に目的に向かって動いてもらうということはどういうことか(授業12,13,14,15)、の3点を中心に、医療現場で他者との関係をうまく成立させることに役に立つ心理学の話をする。なるべく日常の状況に合わせた事例を紹介しながら、他者理解に必要な視点を育む。</p> <p><学修の到達目標> これらの授業を通して、相手の「心」を直接把握することができないこと、相手の「心」は推測でしか扱えないこと、同じ状況でも人によって違う心が推測されること、自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないこと、その上で相手との人間関係を考えなければいけないことを理解して、人間関係に活用することができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 将来の自らの医療現場における人間関係(患者と自分の仕事、同僚とのやり取り、医師とのやり取りなど)を想定し、その関係の中で必要となる「相手の心」をどう考えることが可能なかを考えておくこと。毎回の授業に臨むにあたって、配布するテキストを読んで理解してくると同時に、疑問を作って、授業中に解決するようにする。 <必要時間> 各回90分</p>		<p><内容> 本授業では、相手の「心」を理解すること、一人一人違うこと・同じこと、人に行動させるのに必要なことを学ぶ。したがって、授業で学習した内容を、現実の場における人間関係で実践すること。本授業の内容は、医療現場だけでなく、家族とのやり取り、映画で出てくる人間関係、恋人の考え、すべてに使えるが、唯一苦手なのが「自分の心」だということも、実感する。 <必要時間> 各回90分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	イントロダクション：「行動」を説明する「心」：授業の概要、評価の方法			
2	「心」を知る方法：直接覗くことはできない「心」			
3	「心」を知る方法：「行動」から「心」を推測する			
4	「心」を知る方法：「心」の推測には「行動」と「刺激」の情報が必要			
5	「相手の心」は私の中に出来上がる：相手の「心」は主観的解釈			
6	現象の主観的な理解			
7	科学的学問としての心理学			
8	心理学の中心テーマ：個人差			
9	個人差を規定する要因1：遺伝			
10	個人差を規定する要因2：環境			
11	個人差を規定する要因3：遺伝と環境の相互作用			
12	要求・行動とフロイト理論			
13	行動を出現させるもの：動因と誘因			
14	動機づけの機能			
15	要求の生得性と習得性			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
<p>評価は、毎回授業で紹介される内容を理解し、自らの身近な事象に利用できるようになっているかで見ると、そのための参考資料は、試験結果(90%)、毎回の授業で提出するコミュニケーションカード(10%)である。</p>				
使用教科書				
<p>教科書は特に用いない。 (授業に必要な資料は、授業開始時及び時間中に配付する。)</p>				
参考図書				
適宜、紹介する。				
備考				
<p>毎回の授業の終わりにコミュニケーションカードを提出してもらう。ここには授業内容のまとめと同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。</p>				

授業科目名		担当教員		
生命倫理学		谷口 泰弘		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 前学期	2単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> バイオエシックス(生命倫理学)の基礎的な事項を学ぶ。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。 本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の医療に関する倫理的問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説する。</p> <p><学修の到達目標> 医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。 バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳を理解する。 講義の各論から、医療に係る倫理的問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 授業計画に記載した各单元について、事前に教科書を読み、分からない単語などを予め調べておくこと。 <必要時間> 各回45分</p>		<p><内容> 補足資料として配られたプリント、教科書及び演習の内容と照らし合わせて、何が問題になっているかを整理して考え、まとめておくこと。関連教科として社会学、人間関係論、哲学などがある。 <必要時間> 各回45分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	バイオエシックス総論 (ガイダンス、基礎概念)			
2	バイオエシックス総論 (歴史的背景ⅡⅢ 以前)			
3	バイオエシックス総論 (歴史的背景ⅡⅢ 以後)			
4	自己決定と人間の尊厳(インフォームド・コンセント)			
5	倫理理論の考え方(応用倫理学からのアプローチ)			
6	生殖補助医療の問題 (人工授精、体外受精、代理母)			
7	生殖補助医療の問題 (出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶)			
8	遺伝子をめぐる問題(ヒトゲノムの利用、遺伝子特許、個人情報、エンハンスメント)			
9	ライフサイエンス研究をめぐる問題(再生医療、ヒトES細胞研究、ヒトiPS細胞研究)			
10	脳死・臓器移植をめぐる問題(脳死の定義、臓器移植法、移植システム)			
11	終末期をめぐる問題 (尊厳死、安楽死)			
12	終末期をめぐる問題 (治療中止、鎮静、緩和医療)			
13	医療と法律(医療事故関係、医療契約)			
14	広義のバイオエシックス(動物倫理、環境倫理)			
15	研究をめぐる倫理(研究不正、倫理委員会、オーサーシップ、利益相反等)			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
<p>評価基準は、知識・理解および思考とする。その評価方法は、定期試験を実施して評価する(80%) ミニレポート等の提出物の内容も評価に入れる(20%)</p>				
使用教科書				
生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか.--改訂版--医療科学社, 2018年, ISBN978-4-86003-497-9				
参考図書				
備考				
<p>適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けないが、講義終了後に教室に残り質問等について対応する(この時間を活用してください)。</p>				

授業科目名		担当教員			
基礎演習		辻 圭一・石田 裕保・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 辻圭一)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)	演習
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 本講義では、学生生活のあり方やレポートの書き方など身近なテーマから、社会的マナーやルール、あるいは社会人として知るべきテーマについて論じ、社会のルールをしっかりと理解することを目的とする。加えて、医療系学生として必要な学習方法を習得する。さらに、知識を他者に伝達する方法を体験しコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p><学修の到達目標> 学生生活のあり方、社会的マナーやルールが理解できる 話し合いを通じて他者の考え方が理解できる 医療系学生としての学習方法を身につける</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> オリエンテーションにて指示をします <必要時間> 各回60分</p>			<p><内容> グループのメンバーで、課題についての話し合いを行ってください <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	オリエンテーション、レポートの書き方と提出方法				
2	社会的マナー<礼儀>やルール				
3	グループワーク1<テーマ: 教養・社会性・医療と経済>発表および討論				
4	グループワーク2<テーマ: 福祉・労働の意義・人間関係>発表および討論				
5	学習方法総論(大学での学習方法、自己学習の取り組み方、インターネットの活用)				
6	学習方法各論1(基礎医学の学習方法およびグループワークの進め方)				
7	学習方法各論2(他者への知識の提供方法)				
8	学習方法各論3(個人間での知識の共有方法)				
9	学習方法各論4(学習における記録の残し方)				
10	演習1(グループワーク: 課題の提示方法)				
11	演習2(グループワーク: 学習内容の提示方法)				
12	演習3(グループワーク: シェア学習の実践)				
13	演習4(グループワーク: シェア学習の実践)				
14	演習5(グループワーク: ペア学習の実践)				
15	演習6(グループワーク: ペア学習の実践)				
評価基準・評価方法					
受講態度(50%)、レポート(50%)					
使用教科書					
PT・OT 国家試験共通問題頻出キーワード1800 / 中島雅美/中島喜代彦.南江堂, 2013年, ISBN978-4-524-26895-5 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート / 中島雅美.--第3版--医歯薬出版, 2018年, ISBN978-4-263-26551-2					
参考図書					
備考					
講義内容に質問があれば、研究室に問い合わせる事。 <辻研究室 k.tsuji@heisei-iryuu.ac.jp>					

授業科目名		担当教員		
文章表現法		弓削 繁		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 将来医療や介護等の世界で働く者にとって、他者とのコミュニケーション力と文章作成力とは、職務上きわめて大切なものになってくる。そこでこの講義では、自分の国語力を知り基礎力を高めるために毎回初めに小テストを行う。そして次に教科書に沿って文章表現の基礎を学び、手紙文・公用文・作文・論説文・レポートなどの書き方を実践的に身につけていく。</p> <p><学修の到達目標> 豊かな国語力を身につけ、場面や状況に応じた適切なコミュニケーションができる。 自分の意見や考えを的確な文章にして表現することができる。 専門科目で求められるレポートや、社会人・職業人に必要な種々の文書を作成することができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書に目を通し、付されている問題を解いてくる。また文章作成問題について、授業時間内に書き上げられるよう内容と構成を考えてくる。 <必要時間> 各回50分</p>		<p><内容> 返却された小テストの間違い箇所を確認し、正しく理解しておく。学習内容を復習するとともに、宿題になった文章課題を完成させる。 <必要時間> 各回50分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	講義の内容と方法についての説明と、ことばの機能に関する概説			
2	文章表現の基礎知識～原稿用紙の使い方			
3	文章を書く時の注意点～悪文の種類とその直し方			
4	文章を書く時の注意点～間違った言葉遣い、表現			
5	レポート・小論文の様式～頭書き・本文・注記・文献の引用など			
6	レポート・小論文の用語と文体～話し言葉と書き言葉、常体と敬体、など			
7	論理的な文章構成～帰納法と演繹法、頭括法と尾括法、三段構成と四段構成など			
8	作文もしくは小論文を書く～授業前半の総括として			
9	敬語の基礎～敬語の種類と用法			
10	敬語使用上の注意点～相手との関係性と場面性			
11	手紙の種類と様式～頭語と結語、前文・本文・末文など			
12	手紙文の作成～礼状・挨拶状を書く			
13	公用文の種類と様式～案内状・会議録などを書く			
14	就職関係文書の書き方～履歴書・エントリーシートなど			
15	社会問題をテーマにした小論文の作成～授業全体の総括として			
	定期試験 筆記(小テスト・教科書からの基礎問題と、論述問題) 毎回初めに小テストを行い、各自で自己採点する			
評価基準・評価方法				
小テスト(学習態度と基礎学力を評価)20%、提出課題(学習意欲と文章表現力を評価)20%、定期試験(総合的な国語力と文章作成力を評価)60%。 なお、定期試験は直前の勉強では対応しきれないので、日々の学習を怠らないこと。				
使用教科書				
日本語表現法-2 1世紀を生きる社会人のたしなみ / 庄司達也ほか.--改訂第2版--翰林書房, 2016年, ISBN978-4-87740-316-0				
参考図書				
必要に応じて講義中に紹介する。				
備考				
小テストは毎回回収し評価して返却するので提出し忘れないこと。 教科書には課題用の原稿用紙が綴じ込まれているので忘れずに持つてくること。 質問及び相談事は、月・火・水の授業中とその前後に対応する。				

授業科目名		担当教員		
コミュニケーション学		近藤 ひろえ		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> コミュニケーションの重要性を理解し、医療現場において、患者さん・利用者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p><学修の到達目標> 非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる 年代が違う人への挨拶、返事など、日常的なコミュニケーションができる 自分の気持ち・考えなどを明確に相手に伝えることができる 相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> ・前回の授業内容を振り返る <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> ・授業で学んだこと・気づいたことを実際の生活の中で、試す。 ・試した上で疑問点を次回授業で質問できるように準備する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	コミュニケーションの重要性・学び方;コミュニケーションの重要性と身につけ方を学ぶ			
2	コミュニケーション最初の一步;第一印象の重要性から挨拶の仕方、初対面の人と話す方法などを体感しながら学ぶ			
3	興味・関心を持つ(1);コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を知り、興味・関心を示すことができるような聴く力、認める力について学ぶ			
4	興味・関心を持つ(2);コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を知り、興味・関心を示すことができるような質問力について学ぶ			
5	価値観の違いとコミュニケーション(1);相手と自分の価値観の違いに気づき、その違いをどのように受け入れてコミュニケーションをすることが必要かを学ぶ			
6	自己理解;他者とのコミュニケーションを円滑にするために、自分のことをどのように捉えているかが重要であることを学ぶ			
7	伝え方の基本(1);なぜミスコミュニケーションが起こるのか、仕組みを学ぶ。どのように説明することが必要かを学ぶ			
8	伝え方の基本(2);「4.伝え方の基本(1)」の続きとして、具体的な伝え方のスキルを体験しながら学ぶ			
9	伝え方の基本(3);「4.伝え方の基本(1)」の続きとして、実際に説明する場面を想定してロールプレイングをする。自分の良い点や今後の課題を見つける			
10	接遇用語の基本(1);医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ			
11	接遇用語の基本(2);前回の授業で学んだことをワークなどで実践する			
12	価値観の違いとコミュニケーション(2);チームで仕事をする上で、必要な相手の意見を受け入れ、自分の意見を伝える手法を学ぶ			
13	チームワーク;チームで仕事をする上で必要な考え方を学ぶ。自分自身がチームでどんな役割・立ち位置にいたことが多いかなどに気づく			
14	コミュニケーション実践(1)ケーススタディ;今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する			
15	コミュニケーション実践(2)ケーススタディ;今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する			
	定期試験 無し			
評価基準・評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度(授業への関わり方) 60% ・レポートの内容(複数回レポート提出) 40% 				
使用教科書				
コミュニケーション学 ワークブック 2019年版 / 近藤ひろえ.非売品,				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行に伴って、その都度紹介する。 ・適宜、教材として使用するプリントなども配付する。 				
備考				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいので課題をもって授業に臨んでください。 ・オフィスアワー:授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。 ・Eメールアドレスは、初回講義時間内にお知らせする。 				

授業科目名		担当教員		
英語（教養英語）		西澤 康夫		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要及び学修の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日・英語の語順を対比し、英文法の基本を学び、初級～中級程度の英語の読解力を養うこと 2. 英語の母音と子音の発音に習熟し、初級程度の単語や文を正しく聞き分ける聴解力を身につけること 3. 五文型について学び、中級程度の英文の構造を正しく理解し、正確に和訳できる力を身につけること 4. 英和辞典の使い方に慣れ、自力で英文を読むための基本ツールとして使いこなせるようになること 5. 動詞の活用、自動詞と他動詞、複文について学び、基本的な英文を話し、書く力を身につけること 6. 前置詞、冠詞、to不定詞、現在分詞、過去分詞を正しく使えるようになるために、基本例文を学ぶこと 7. 仮定法について基本を学び、多くの例文を通じてその使い方に慣れること 				
事前学習		事後学習		
<p><内容></p> <p>使用するテキストの英文をまず自分で読んでおき、理解できないところがないか、あらかじめチェックしておくこと。授業中の説明を聞いても分からないときは質問すること。</p> <p><必要時間> 毎回60分</p>		<p><内容></p> <p>授業中の説明についてのメモを見ながら、要点を整理してきちんと正確にノートに記述しておくこと。不明な個所があれば、次回の授業で質問すること。</p> <p><必要時間> 毎回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	授業概要、学修目標について説明し、英語を学ぶ意味、日・英語の語順の違いに意識を喚起する。			
2	名詞と代名詞の役割、自動詞と他動詞の区別、主格、目的格、所有格の見分け方について学ぶ。			
3	文の要素と五文型の関係、八品詞の役割、文の要素に含まれない修飾語句の決まった位置と機能について学ぶ。			
4	時と理由を表す接続詞の正しい使い方を学び、複文における主節と従属節の関係を深く理解する。			
5	単語の構成素である母音と子音について学び、日・英語の発音の基本的な相違に対する意識を高める。			
6	個々の母音、および子音について個別に発音を学び、単語の中で実際に発音する訓練をする。			
7	英単語のスプリングとその発音との関係を学び、知らない単語の発音を予測する訓練をする。			
8	音節及びアクセントについて学ぶことによって、単語を理解可能なレベルで発音できるように訓練する。			
9	英文のイントネーションを学ぶことによって、英文に感情を乗せて話せるための基本を身につける。			
10	前置詞＋名詞＝前置詞句という公式概念を使って、英語表現の微妙な使い分けについて学ぶ。			
11	to不定詞の三つの使い方に慣れ、例文を通じて英語表現の幅を広げる方法を学ぶ。			
12	仮定法、すなわち仮想表現について学び、豊富な例文を通じてそれを自在に使えるよう慣れ親しむ。			
13	冠詞の種類と使い方について学び、常に冠詞を正しく使うことができるようになるための練習をする。			
14	接頭語、および接尾辞について学び、派生語を通じて語彙を増やす方法に習熟する。			
15	特定の接頭語や接尾辞を使って、単語の品詞変換、反意語の作成方法について学ぶ。			
	定期試験（筆記）			
評価基準・評価方法				
予習・復習をし、私語をせず、積極的に質問をし、ノートを取り、小テストを受け、練習問題を解き、課された宿題を忘れない、などの学習態度（40%）及び期末の定期試験の成績（60%）で総合的に評価する。				
使用教科書				
循環型で学ぶ英語リーディング演習 Reading Cycle / 金星堂 2016年,				
参考図書				
備考				
英和辞典、もしくは電子辞書を購入し、授業中にいつでも参照できるように持参すること。また、授業の予習や復習にそれらの辞書を参照すること。ただし、英和辞典や電子辞書に代わるものとして、スマホでインターネット上の辞書、例えばweblioなどを使用することは可とする。宿題の提出は、所属学科、学籍番号、氏名を記入したルーズリーフ1～2枚程度を使用して提出すること。ノートによる宿題の提出は不可。教員による点検の終わった宿題は、原則として次週に返却するものとする。				

授業科目名		担当教員		
英語（日常英会話）A		西澤 康夫		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要及び学修の到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初級の基本的な日常の英語を聞いて、一定程度聞き取りが出来るようにする。 2. 日常の色々な場面でよく使われる決まった言い方に慣れ、一般的な質問の仕方とその答え方について学ぶ。 3. 英文雑誌記事や新聞の記事、またメールの英文に触れ、日常の話題とその英語に触れて会話を高める。 4. 与えられた短い日常英語の例文を、対応する和訳を参考にしながら、50以上暗唱する。 5. 英文メールに慣れ、自分でもメール文を書ける自信をつける。 6. Dialogue(対話)を読んだり、聞いたりして、理解できるように練習する。 7. テキストの対話文をペアで練習し、自分で積極的に発話する態度を身に付ける。 				
事前学習		事後学習		
<p><内容></p> <p>日常の英語を素材にしたテキストの予習をし、基本暗唱英文を、テストに備えて、毎回一定量、暗唱しておくこと。</p> <p><必要時間> 各回60分</p>		<p><内容></p> <p>教室で学んだ対話文の音読をし、英語の定着を図る。暗唱英文テストの検証をし、間違いをたず。</p> <p><必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	授業の受け方についてガイダンスを受け、テキストのUnit1のDialogue、Reading、Writingを学ぶ。			
2	Unit1のReadingの解説、Writingのパラグラフの構造について学び、暗唱英文の英文を学ぶ。			
3	Unit2のDialogue、Reading、Writingを学び、動詞+to不定詞・動名詞につて学び、小テストを受ける。			
4	Unit3のDialogue、Reading、Writingを学び、見た目や性格を表す形容詞を学び、小テストを受ける。			
5	Unit4のDialogue、Reading、Writingを学び、be動詞、一般動詞の過去形を学び、小テストを受ける。			
6	Unit5のDialogue、Reading、Writingを学び、現在進行形と過去進行形を学び、小テストを受ける。			
7	Unit6のDialogue、Reading、Writingを学び、命令形について学び、小テストを受ける。			
8	Unit7のDialogue、Reading、Writingを学び、比較級と最上級について学び、小テストを受ける。			
9	Unit8のDialogue、Reading、Writingを学び、存在や所有を表す表現を学び、小テストを受ける。			
10	Unit9のDialogue、Reading、Writingを学び、未来を表す表現について学び、小テストを受ける。			
11	Unit10のDialogue、Reading、Writingを学び、現在完了形の4つの用法を学び、小テストを受ける。			
12	Unit11のDialogue、Reading、Writingを学び、提案、義務を表す助動詞を学び、小テストを受ける。			
13	Unit12のDialogue、Reading、Writingを学び、Why疑問文と間接疑問文を学び、小テストを受ける。			
14	Unit13のDialogue、Reading、Writingを学び、可算名詞と不可算名詞について学び、小テストを受ける。			
15	Unit14のDialogue、Reading、Writingを学び、Yes/No疑問文、Why疑問文を学び、小テストを受ける。			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度(50%)と、定期試験の結果(50%)で評価する。				
使用教科書				
English Beams:Essential Skills for Talking and writing / 金星堂, 2016年, ISBN978-4-7647-4018-1				
参考図書				
備考				

授業科目名		担当教員			
英語（日常英会話）B		ミルホド・セイド・エハド			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 本講義では、英語によるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。その際、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、文化・社会とのかかわりについても考慮する。毎回さまざまな言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることも目的の一つとする。</p> <p><学修の到達目標> 英語の受信能力（リーディング・ライティング）だけではなく、発信能力（リスニング・スピーキング）を高める。また、英語の伝達的な機能のみではなく、英語と文化・社会とのかかわりなどへの理解を高め、多様な情報を様々な方向から理解・解釈する力の育成を目指す。授業終了時には英語の受信能力及び発信能力が向上し、実践することができる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> ・事前の準備に取り組むこと ・テキストを読み、理解を深めること ・学習内容を周知すること <必要時間> 毎回30分</p>			<p><内容> ・指導者が提示した内容を踏まえて復習すること ・事後活動に積極的に参加すること <必要時間> 毎回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	Week 1: Introductions / Family: Pairwork activity				
2	Week 2: Food, Time: Questions & conversations				
3	Week 3: House & Home, Music: Questions & conversations				
4	Week 4: Transportation, Sports: Questions & conversations				
5	Week 5: Numbers, Best friends: Questions & conversations				
6	Week 6: TV, Work: Questions & conversations				
7	Week 7: Vacation, School: Questions & conversations				
8	Week 8: Movies, Money: Questions & conversations				
9	Week 9: Restaurants, Animals: Questions & conversations				
10	Week 10: Shopping, Health & Fitness: Questions & conversations				
11	Week 11: Fashion, Travel: Questions & conversations				
12	Week 12: Books, Newspaper, Sickness: Questions & conversations				
13	Week 13: Holidays, Fears: Questions & conversations				
14	Week 14: Dating, Marriage: Questions & conversations				
15	Week 15: Review all topics				
	試験（筆記）				
評価基準・評価方法					
授業参加態度・小テスト・・・40%，理解度判定・・・60%					
使用教科書					
TOPIC TALK / David Mertin.FEL Press ,					
参考図書					
備考					
皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。 学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。 授業でDVD日常英会話入門も使用し会話の練習を行う。					

授業科目名		担当教員			
英語（専門英語）		ミホト・セイド・エハト			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という3つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。</p> <p><学修の到達目標> 毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す。正しい発音と適切なパターンで発話することができる。 医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> ・事前の準備に取り組むこと。 ・テキストを読み、理解を深めること。 ・学習内容を周知すること。 <必要時間> 毎回30分</p>			<p><内容> ・指導者が提示した内容を踏まえて復習すること。 ・事後活動に積極的に参加すること。 <必要時間> 毎回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	オリエンテーション				
2	Lesson 1: Reception Desk (救急外来受付)				
3	Lesson 2: Examination Room (診察室)				
4	Lesson 3: Giving Injection (注射をする)				
5	Lesson 4: Explanation to a Family Member (患者の家族への説明)				
6	Lesson 5: Self-Introduction and First Meal (自己紹介と初めての食事)				
7	Lesson 6: Orientation to the Ward (入院病棟を案内する)				
8	Lesson 7: Asking Height, Weight, and Temperature (身長、体重、体温を訪ねる)				
9	Lesson 8: Obtaining the Patient's History (患者歴をとる) 小テスト				
10	Lesson 9: Checking the Patient's Condition (患者の状態をチェックする)				
11	Lesson 10: Blood Test Explanation (血液検査の説明)				
12	Lesson 11: Drawing a Blood Sample (採血)				
13	Lesson 12: Explaining about the Operation: Basic Procedures (手術についての説明: 基本の手順)				
14	Lesson 13: Explaining about the Operation: Anesthesia (手術についての説明: 麻酔)				
15	Lesson 14: Taking the Patient into Surgery (手術室への搬送)				
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60%					
使用教科書					
Essential English For Nurses 5th Edition(学生版) / Paul Zito & Masako Hayano. 日総研, ISBN978-4-7760-1861-2					
参考図書					
備考					
皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。 学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。					

授業科目名		担当教員		
ドイツ語		安藤 彰浩		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> ドイツ語における初級の基礎知識の習得を目指す。インターネット(動画サイトYou Tube 等でニュース放送を見る)を活用して、ドイツ人の話す生のドイツ語に触れる機会を設ける。ドイツ社会における時事的、文化的話題を提供して、ドイツの歴史や文化に対する興味を喚起する。</p> <p><学修の到達目標> ドイツ語の基本的な表現に親しむ。ドイツ語学習を通じて言葉の感覚を磨き、自分をより正確に表現する力を身に付ける。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 次に扱うテキストの内容に目を通す。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 授業内容の確認 <必要時間> 各回15分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	発音。数字0~12。挨拶			
2	自己紹介。 - 動詞の現在人称変化 ich/Sie			
3	自己紹介。 - 動詞の現在人称変化 du			
4	第三者の紹介。 - 動詞の現在人称変化 三人称単数 er/sie			
5	身の回りのもの。 - 格変化:主格(1格)。複数形			
6	買い物・家族。直接目的格(4格)。 - 所有冠詞			
7	お土産。間接目的語(3格)。 - 人称代名詞			
8	趣味。時間表現。曜日 - 不規則動詞の現在人称変化			
9	道をたずねる。 - 前置詞の格支配1、命令形			
10	Eメール。月と季節 - 前置詞の格支配2			
11	手紙。時間表現2 - イントネーションと文アクセント			
12	料理・レストラン - 会話表現			
13	ドイツ鉄道 - 分離動詞・非分離動詞、zu 不定詞			
14	ベルリンへの旅 - 話法の助動詞			
15	ドイツの歴史、文化について。 - 文法のおさらい			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
理解度、積極参加を重視 定期試験(60%)、小試験(20%)、授業への取り組み(20%)				
使用教科書				
Deutsch-Information neu2 (ドイツ語インフォメーションneu2) / Akita Shizuo 他.朝日出版社,				
参考図書				
必要に応じて紹介				
備考				
毎回 動画サイトを使ってドイツ語ニュースを見ます。				

授業科目名		担当教員		
中国語		橋本 永貢子		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択	1年 後学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p>< 概要 > 現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深め、将来医療従事者になった場合にも役に立つ教養を身に付ける。</p> <p>< 学修の到達目標 > 発音記号が読めるようになること 基礎的な文法を習得し、簡単な日常会話ができるようになること</p>				
事前学習		事後学習		
<p>< 内容 > 教科書付録のCDを聞いて予習しておくこと。 < 必要時間 > 各回90分</p>		<p>< 内容 > 教科書付録のCDを聞いて復習しておくこと 授業中に指示された課題に取り組むこと < 必要時間 > 各回90分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	中国語の概要と四声			
2	母音(1)			
3	母音(2) 子音(1)			
4	子音(2)			
5	発音のまとめ			
6	挨拶のしかた			
7	“ A是B ” の文(1)			
8	“ A是B ” の文(2)、動詞述語文(1)			
9	動詞述語文(2)			
10	存在を表す文(1)			
11	存在を表す文(2)、所在を表す文(1)			
12	所在を表す文(2)			
13	助動詞のある文(1)			
14	助動詞のある文(2)			
15	実践的な中国語会話練習			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況(20%)と学期中数回行う小テスト(30%)、および期末テストの結果(50%)から総合的に評価する。				
使用教科書				
医療系学生のための初級中国語 / 山田眞一・白帝社, ISBN978-4-89174-979-8				
参考図書				
備考				
小テストについては、次の授業の際に採点したものを返却しまた解説する。 連絡先メールアドレス: ran@gifu-u.ac.jp				

授業科目名		担当教員			
解剖学 (骨・筋肉系)		千田 隆夫			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 成人の骨は約200個あり、関節でつながって筋の収縮によって動く。骨と関節と筋をあわせて運動器と呼ぶ。快適な日常生活を営むには、骨と関節と筋の働きが非常に重要である。骨・関節・筋に障害が起こると、動作や運動が制約される。理学療法・作業療法の多くは、運動器の働きを正常に戻すために行われている。したがって、理学療法士・作業療法士をめざす諸君にとっては、運動器の知識は非常に重要である。この授業では、人体の骨・関節・筋の概略について学び、様々な人体の運動への骨・関節・筋の関わりについて理解を深める。</p> <p><学修の到達目標> 全身の骨格を構成する個々の骨の名称、数、形状、構造上の特徴を知り、筋・血管・神経・内臓との関係を理解する。 骨と骨の連結様式を知り、それに基づく関節の運動を理解する。 全身の骨格筋の名称、起始・停止、形状、作用、支配神経を知り、様々な運動にどの筋がどのように関与するかを理解する。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 次回の講義で出てくる骨、関節、筋の図を、指定のカラーリングブックで探し、その位置と形を大まかに把握しておく。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 講義で出てきた骨、関節、筋の位置、形、特徴をカラーリングブックの解説文を読みながら、着色した図で確認する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	骨の一般構造・骨化・機能				
2	関節の一般構造・種類・運動				
3	脊柱を構成する骨と関節				
4	胸郭を構成する骨と関節				
5	上肢を構成する骨と関節				
6	下肢を構成する骨と関節				
7	頭蓋を構成する骨と関節				
8	頭蓋を構成する骨と関節				
9	筋の構造・機能				
10	頭部の筋				
11	頸部の筋				
12	胸腹部の筋				
13	背部の筋				
14	上肢の筋				
15	下肢の筋				
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
定期試験(80%)、授業態度(20%)を総合的に判断して評価する。					
使用教科書					
人体解剖カラーリングブック / Twietmeyer・McCracken 天野修、千田隆夫ほか監訳。丸善出版, 2017年, ISBN978-4-621-07967-6					
参考図書					
1) カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学, 坂井建雄編集、メディカルビュー社 2) トートラ解剖学 Tortora・Nielsen著 小沢一史、千田隆夫、高田邦昭、依藤 宏監訳、丸善出版					
備考					
講義以外に、Eメール(tsenda@gifu-u.ac.jp)でも質問等を受け付ける。					

授業科目名		担当教員		
解剖学 (内臓系)		江村 正一		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 心臓をはじめとした循環器系、気管支、肺などの呼吸器系、食道・胃・腸などの消化器系および内分泌腺と尿生殖器について学ぶ。いくつかの臓器が一体となって機能し、生命が維持されていることを理解する。</p> <p><学修の到達目標> 循環器・呼吸器・消化器・内分泌腺・泌尿器・生殖器について理解することができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書の該当する部分を丁寧に読み、それぞれの章で何を学べばよいのか、何を学びたいかを、記録しておく。 <必要時間> 各回 60分</p>		<p><内容> 事前学習で疑問に思ったことは理解・納得できたかを確認する。 <必要時間> 各回 60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	人体の構造 / 生きていくことの出来る最小単位・細胞について、組織について			
2	循環器系 / 心臓について			
3	循環器系 / 動脈について			
4	循環器系 / 門脈について			
5	循環器系 / 静脈・リンパ管について			
6	呼吸器系 / 鼻・喉頭・気管と気管支について			
7	呼吸器系 / 肺について			
8	消化器系 / 口腔・食道について			
9	消化器系 / 胃・小腸・大腸について			
10	消化器系 / 肝臓・胆嚢・膵臓について			
11	内分泌腺 / 視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎について			
12	泌尿器 / 腎臓・尿管・膀胱について			
13	発生			
14	生殖器 / 男女生殖器について			
15	各内臓が密接な関係にあることを理解する			
	筆記試験			
評価基準・評価方法				
筆記試験結果 (100%)				
使用教科書				
系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 / 坂井建雄ほか.--第10版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03171-4				
参考図書				
適宜、参考資料を配布する。				
備考				
試験の模範解答を掲示する。 E-mail s.emura@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員			
解剖学 (神経系)		堀 信宏・近藤 直実・河村 章史・大場 かおり・藤橋 雄一郎 (代表教員 堀 信宏)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義 仏バ`ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 解剖学 (神経系)では主に中枢,末梢,自律神経系と感覚器について学びます。理学療法士,作業療法士にとって神経解剖の知識は,将来対象となる脳血管障害やパーキンソン病,多発性硬化症,脊髄損傷といった身体機能障害を理解する基礎となるだけでなく,認知症や高次脳機能障害といった認知面の基礎にもなります。また,臨床(国家試験でも)中枢神経系の画像に触れる機会が増え,解剖を基に治療プランを作成している。以上より,構造と機能の理解は必要不可欠です。</p> <p><学修の到達目標> ニューロンの基本構造や脳,脊髄,脊髄神経,脳神経,自律神経の構造について理解する。 上肢に分布する腕神経叢の枝や,下肢に分布する腰神経叢の枝の走行と障害を受けやすい部位を説明できる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 該当する教科書の内容を確認し,新しい用語について調べる。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 授業ことで,何処が重要な内容なのかを必ず見直す。 小テストの内容を必ず復習する。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	臨床に繋がる神経解剖学		近藤		
2	神経系総論:神経の区分,神経の構成,髄膜と脳室系		藤橋		
3	中枢神経系:脊髄,脳幹		堀		
4	中枢神経系:小脳		堀		
5	中枢神経系:大脳(間脳,大脳皮質の構造)		堀		
6	中枢神経系:大脳皮質(大脳皮質の機能局在)		堀		
7	中枢神経系:神経路(体性感覚神経路,平衡覚の神経路)		藤橋		
8	中枢神経系:神経路(錐体路系,錐体外路系)		藤橋		
9	末梢神経系:脊髄神経(自律神経)		藤橋		
10	末梢神経系:脊髄神経(腕神経叢,腰神経叢,仙骨神経叢)		河村		
11	末梢神経系:脊髄神経(腕神経叢,腰神経叢,仙骨神経叢)		河村		
12	末梢神経系:脊髄神経(腕神経叢,腰神経叢,仙骨神経叢)		河村		
13	脳神経: - 脳神経		大場		
14	脳神経: - 脳神経		大場		
15	感覚器:皮膚,視覚,平衡感覚		大場		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
各担当者が行う小テストを基に出題する。期末試験100%(参加度・態度・小テストを加味する)					
使用教科書					
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 / 野村嶺編.--第4版--医学書院,2015年,ISBN978-4-260-02008-4 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア,2017年,ISBN978-4-89632-686-4					
参考図書					
プロメテウス解剖学アトラス第3版,坂井建雄ら監訳,医学書院,2014					
備考					
範囲が広いので,各担当が行う小テストをしっかりと取り組み,覚えること。 解らない内容は後回しにせず,その都度整理につとめることが大切です。この神経系解剖は,2年生の神経系疾患の基礎になるので,ここをしっかりと勉強しておく,後の学修に有益になる。					

授業科目名		担当教員		
解剖学演習（体表解剖 上肢）		田島 嘉人		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
開講形態				
演習				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 解剖学演習(体表解剖)では、理学療法士として必要な皮膚からの視察・触察の技術を学ぶ。具体的には筋の形状、起始停止を確認し、その走行と役割を確認する。関節を構成する靭帯・関節包などから生じる問題について考察を加える。理学療法士はこの視診や触診を基に障害部位の評価や治療を行う職種である。二次元的に学んだ知識を三次元的に捉え、治療対象部位を適切に視察・触察する能力を身につける事、患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える事が本演習の目的である。小テストを頻回に実施し、知識の習得度合いについて確認を行っていく。又、同時に医療に携わる者として基本的態度を身につけることができるようにする。授業形式は主にICTを活用した反転授業形式を取り、予習、講義、復習をすることで、触診技術を高める。</p> <p><学修の到達目標> 治療対象部位を適切に視察・触察する知識、技術を身につけることができる 患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える臨床対応力を身につけることができる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 予定されている骨部位、筋などの軟部組織(シラバスや講義での次回予告などを参考)について、解剖書などでその概要を把握し、事前に配信した講義動画や講義DVDで視聴、実技練習しておく。 <必要時間>各回60分</p>		<p><内容> 骨部位、筋などの軟部組織のそれぞれの特徴(起始・停止・支配神経など)について確実に知識を習得する。 実技練習を行い、触診技術を習得する。 <必要時間>各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	解剖学用語 運動学基礎 触診技術の基本			
2	肩関節 骨 肩甲棘 肩峰 内側縁 外側縁 上角 下角			
3	肩関節 骨 烏口突起 肩鎖関節 胸鎖関節 大結節 小結節 鎖骨 臨床対応力とは			
4	肩関節 筋 小円筋 大円筋			
5	肩関節 筋 棘上筋 棘下筋 肩甲下筋 烏口腕筋			
6	肩関節 筋 三角筋 僧帽筋			
7	肩関節 筋 大・小菱形筋 大胸筋 小胸筋			
8	肩関節 筋 前鋸筋 広背筋 肩甲挙筋			
9	肘関節 骨 外側上顆 内側上顆 橈骨頭 上腕筋 上腕二頭筋			
10	肘関節 筋 上腕三頭筋			
11	手関節 骨 橈骨尺骨茎状突起 手根骨			
12	前腕 筋 円回内筋 前腕屈筋群			
13	前腕 筋 前腕伸筋群 腕橈骨筋			
14	前腕手 筋 総指伸筋 浅指屈筋 深指屈筋 虫様筋			
15	前腕 筋 長母指外転筋 短母指伸筋 長母指伸筋 長母指屈筋			
	定期試験(筆記及び実技)			
評価基準・評価方法				
小テスト、実技チェック、臨床対応力(被検者などに対する態度・言葉使い)、期末試験(筆記・実技)100% 評価については第1回講義で詳細に明示します。評価方法で分からないところがあればいつでも確認してください。				
使用教科書				
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) / 林則雄.--改訂第2版--メジカルビュー社, 2011年, ISBN978-4-7583-1136-6 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 / 坂井建雄ほか監訳.--第3版--医学書院, 2017, ISBN978-4-260-02534-8				
参考図書				
・配布資料(体表サブブックなど) ・ビジュアル版 筋肉と関節のしくみがわかる事典 竹井 仁 著(西東社)				
備考				
臨床における全ての治療の基本である体表解剖の知識は、いわば臨床において知っていて当たり前知識であることを認識し、ひたすら努力して習得するようにして下さい。覚える内容は明瞭です。ただ、量が多いため毎日の積み重ねが大変重要になります。授業では”治療者”としての知識を持ちながら”患者”に接するよう心がけてください。毎回小テストを実施し、できる限り早く返却します。覚えきれていないところ、理解していないところを確認して次につなげるようにして下さい。授業時間内に理解できないところがあれば、できる限り早く質問にきてください。				

授業科目名		担当教員		
解剖学演習（体表解剖 下肢）		田島 嘉人		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
演習				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 解剖学演習(体表解剖)では、理学療法士として必要な皮膚からの視察・触察の技術を学ぶ。具体的には筋の形状、起始停止を確認し、その走行と役割を確認する。関節を構成する靭帯・関節包などから生じる問題について考察を加える。理学療法士はこの視診や触診を基に障害部位の評価や治療を行う職種である。二次元的に学んだ知識を三次元的に捉え、治療対象部位を適切に視察・触察する能力を身につける事、患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える事が本演習の目的である。小テストを頻回に実施し、知識の習得度合いについて確認を行っていく。又、同時に医療に携わる者として基本的態度を身につけることができるようにする。授業形式は主にICTを活用した反転授業形式を取り、予習、講義、復習をすることで、触診技術を高める。</p> <p><学修の到達目標> 治療対象部位を適切に視察・触察する知識、技術を身につけることができる 患者様に可能な限り負担のない形で治療を行える臨床対応力を身につけることができる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 予定されている骨部位、筋などの軟部組織(シラバスや講義での次回予告などを参考)について、解剖書などでその概要を把握し、事前に配信した講義動画や講義DVDで視聴、実技練習しておく。 <必要時間>各回60分</p>		<p><内容> 骨部位、筋などの軟部組織のそれぞれの特徴(起始・停止・支配神経など)について確実に知識を習得する。 実技練習を行い、触診技術を習得する。 <必要時間>各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	股関節 骨 骨盤(上前腸骨棘、下前腸骨棘、JL、上後腸骨棘、坐骨結節、大転子、RNL)			
2	股関節 筋 大殿筋 中殿筋 梨状筋			
3	股関節 筋 長内転筋 大内転筋 薄筋			
4	股関節 筋 縫工筋 大腿筋膜張筋 腸腰筋 スカルパ三角			
5	膝関節 骨 膝(膝蓋骨、膝蓋靭帯、脛骨粗面、内転筋結節) 腓骨頭、近位脛腓			
6	膝関節 筋 大腿四頭筋			
7	膝関節 筋 グループワーク			
8	膝関節 筋 大腿二頭筋 半腱様筋 半膜様筋 膝窩筋			
9	足関節 骨 足(内外果、遠位脛腓、距骨、距骨頭、載距突起、踵骨、舟状骨粗面) 足部(第1中足骨、第5中足骨粗面)			
10	足関節 筋 前脛骨筋 長母指伸筋 長指伸筋			
11	足関節 筋 後脛骨筋 長母指屈筋 長指屈筋			
12	足関節 筋 ヒラメ筋 腓腹筋 長腓骨筋 短腓骨筋			
13	体 幹 骨 乳様突起 外後頭隆起 胸骨柄 頸切痕 多裂筋			
14	体 幹 筋 各脊椎棘突起 多裂筋			
15	触診について 臨床における触診			
	定期試験(筆記及び実技)			
評価基準・評価方法				
小テスト、実技チェック、臨床対応力(被検者などに対する態度・言葉使い)、期末試験(筆記・実技)100% 評価については第1回講義で詳細に明示します。評価方法で分からないところがあればいつでも確認してください。				
使用教科書				
運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹) / 林則雄.--改訂第2版--メジカルビュー社, 2012年, ISBN978-4-7583-1137 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 / 坂井建雄ほか監訳.--第3版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02534-8				
参考図書				
・配布資料(体表サブブックなど) ・ビジュアル版 筋肉と関節のしくみがわかる事典 竹井 仁 著(西東社)				
備考				
臨床における全ての治療の基本である体表解剖の知識は、いわば臨床において知っていて当たり前前の知識であることを認識し、ひたすら努力して習得するようにして下さい。覚える内容は明瞭です。ただ、量が多いため毎日の積み重ねが大変重要になります。授業では“治療者”としての意識を持ちながら“患者”に接するよう心掛けて下さい。毎回小テストを実施し、できる限り早く返却します。覚えきれていないところ、理解していないところを確認して次につなげるようにして下さい。授業時間内に理解できないところがあれば、できる限り早く質問に来て下さい。 y.tajima@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員		
生理学（動物的功能）		川島 卓		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 生理学の外界に対して反応する機能（動物的功能）全般について講義する。</p> <p><学修の到達目標> 末梢神経系と中枢神経系の働きを学び人の感覚情報をもとにどのように運動が起こされるかを理解する。 正常な生理機能の理解をもとに、神経障害などに伴う各種病態症状についての原因を正しく理解する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 授業の予習として教科書と事前配布プリントを読んでおくこと。予備的知識を持っていることは授業内容の理解のためには、最も効果的である。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 授業後ノートを整理し、疑問点などを明らかにしておく。疑問点や不明な個所についてはその後の授業時間後の時間などを利用して遠慮なく質問する事。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	生理学について / 細胞機能の基礎 体液組成、細胞の構造、細胞の物質移動			
2	細胞の興奮発生 / 神経細胞 興奮移動 膜電位 興奮の伝導			
3	筋の収縮 / 骨格筋の構造 筋肉の収縮 筋収縮力学 筋のエネルギー発生			
4	シナプス伝達 / 神経筋伝達 平滑筋 中枢神経系の情報伝達 神経伝達物質 シナプスの可塑性			
5	自立神経系 / 交感神経・副交感神経の内臓諸器官への作用			
6	脊髄 / 脊髄反射 誘発筋電図			
7	脳幹 小脳 / 脳幹の姿勢反射 小脳の神経回路			
8	小脳 基底核 / 小脳と大脳協調 小脳障害 基底核の神経経路 基底核障害			
9	大脳 / 運動の起動と出力			
10	体性感覚 / 皮膚受容器 神経伝導路 大脳感覚野			
11	味覚 嗅覚 聴覚 前庭感覚 / 感覚受容器 神経伝導路 大脳中枢			
12	視覚 / 網膜 視物質 視覚の中核			
13	視覚 / 感覚としての視覚 眼球運動			
14	脳の高次機能 1 / 大脳の神経回路と機能 連合野機能 言語機能			
15	脳の高次機能 2 / 大脳辺縁系 視床下部 記憶 睡眠 脳波			
	定期試験（筆記）			
評価基準・評価方法				
学期末定期試験の成績による（100％）。				
使用教科書				
生理学テキスト / 大地睦男.--第8版--文光堂, 2017年, ISBN978-4-8306-0229-0				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 生理学 岡田隆夫、長岡正範 医学書院 ・コメディカル 専門基礎科目シリーズ 「生理学」桑名俊一 荒田晶子 編著 / 理工図書 ・神経科学 - 脳の探求 ベヤーズ 他 西村書店 				
備考				
教科書以外に、関連項目のプリントを適宜配布する。				

授業科目名		担当教員		
生理学（植物的機能）		川島 卓		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 生理学の生命維持に関する機能（植物的機能）全般について講義する。</p> <p><学修の到達目標> 生命機能維持にはどうしても必要な人体の植物的機能の知識と理解を深める。これを学ぶことにより病態症状の原因を正確に理解ができるようになる。同時にいろいろな専門科目習得のための基礎知識となる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 授業の予習として30分程度教科書と事前配布プリントを読んでおくこと。予備的知識を持っていることは授業内容の理解のためには、最も効果的である。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 授業後ノートを整理し、疑問点などを明らかにしておく。疑問点や不明な個所についてはその後の授業時間後の時間などを利用して遠慮なく質問する事。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	血液 / 血漿と血漿タンパク質 赤血球			
2	血液 / 白血球 免疫 血液型 血小板 血液凝固 線維素溶解			
3	心臓 / 心臓の構造 心臓内伝導系 自律神経による調節			
4	心臓 / 心筋の収縮 心電図 心臓の収縮			
5	循環 / 血管系の区分 血圧調節			
6	循環 / 静脈系の循環 動脈血圧 循環調節 特殊部位の循環			
7	呼吸 / 呼吸のメカニズム			
8	呼吸 / 肺のガス交換 呼吸運動の調節			
9	消化と吸収 / 消化管の構造と神経支配 消化管運動			
10	消化と吸収 / 消化液の分泌 栄養素の分解吸収			
11	内分泌 / ホルモン 視床下部 下垂体			
12	内分泌 / 甲状腺 副腎 膵臓 性ホルモン			
13	生殖 / 男性・女性生殖生理 妊娠			
14	腎機能 / ネフロン of 構造, 糸球体ろ過 体液調節			
15	代謝と栄養 / 日常の生理学			
	定期試験（筆記）			
評価基準・評価方法				
期末定期試験成績による（100％）。				
使用教科書				
生理学テキスト / 大地睦男.--第8版--文光堂, 2017年, ISBN978-4-8306-0229-0				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 岡田隆夫、長岡正範 医学書院 ・コメディカル 専門基礎科目シリーズ 「生理学」 桑名俊一 荒田晶子 編著 / 理工図書 				
備考				
教科書以外に、関連項目のプリントを適宜配布する。				

授業科目名		担当教員			
生理学演習		河合 克尚・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 河合 克尚)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)	演習 仏バ ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 生理学で学んだ知識を演習により確認する。動物の生理学では、神経や筋の組織観察を基に筋の活動や生化学反応の観察を行ったり、筋電計の測定を実施する。植物的生理学では、体温、心電計、呼吸機能の測定を実施する。また、グループワークを通して、測定結果から実際の生体反応についてを考察する。</p> <p><学修の到達目標> 誘発筋電図より、神経線維の種類や伝道速度について理解する。 体温の身体部位による違いと体温調節の仕組みを理解する。血圧、脈拍が神経性に調節される仕組みを理解する。 心電図および呼吸機能検査(スパイロメトリー、フローボリューム曲線)について理解する。 観察した組織について、その組織(器官)の構造と機能の関係について理解する。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 生理学の教科書(生理学テキスト:文光堂)について、授業計画に記載されている各章を読んで、生理学の復習をしてください。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 課題レポートを通して、授業で学んだ知識の整理と確認を行う。また、臨床実習などを通して、患者様の評価(バイタルチェック)について理解を深める。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	誘発筋電図 <教科書:第6章(運動系)>		藤橋		
2	誘発筋電図 <教科書:第6章(運動系)>		藤橋		
3	誘発筋電図 <教科書:第6章(運動系)>		藤橋		
4	誘発筋電図 <教科書:第6章(運動系)>		藤橋		
5	脈、血圧、体温 <教科書:第14章(循環) 第21章.(体温)>		植木		
6	脈、血圧、体温 <教科書:第14章(循環) 第21章.(体温)>		植木		
7	脈、血圧、体温 <教科書:第14章(循環) 第21章.(体温)>		植木		
8	脈、血圧、体温 <教科書:第14章(循環) 第21章.(体温)>		植木		
9	心電図、呼吸機能の測定と評価 <教科書:第13章(心臓)、第15章(呼吸)>		河合		
10	心電図、呼吸機能の測定と評価 <教科書:第13章(心臓)、第15章(呼吸)>		河合		
11	心電図、呼吸機能の測定と評価 <教科書:第13章(心臓)、第15章(呼吸)>		河合		
12	顕微鏡による組織観察(神経、筋を中心に)		河合		
13	顕微鏡による組織観察(神経、筋を中心に)		河合		
14	顕微鏡による組織観察(神経、筋を中心に)		河合		
15	顕微鏡による組織観察(神経、筋を中心に)		河合		
評価基準・評価方法					
評価方法は、レポート(100%)とする。					
使用教科書					
配布資料					
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・生理学テキスト(文光堂) ・その他適宜紹介する 					
備考					
質問等がある場合は、演習中や授業終了後、オフィスアワーを積極的に活用して下さい。 レポートについては、コメントを記載しフィードバックします。					

授業科目名		担当教員		
運動学総論		堀 信宏		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 運動学は人の身体運動の仕組みに関する学問です。動作や活動の改善を求める理学療法士・作業療法士にとって基礎となります。「骨・関節・筋・神経」の解剖と、運動を解釈するための「力学」、日常生活の基本となる「姿勢・歩行」を学びます。これら複数の視点から捉える事で人の動作や活動の仕組みが解り、障害者が「何故動けないのか」見えてくる。</p> <p><学修の到達目標> 人の運動・姿勢を捉えるための筋・骨・関節・神経の基礎を学ぶ。 力学の基礎を理解する。例題を通じて解き方を理解し、国家試験問題を解けるようにする。 バランス・姿勢・歩行の基礎知識を学び、異常姿勢・異常歩行を説明できるようにする。運動学習とは何かを学ぶ。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 新しい言葉が沢山出てきます。シラバスに沿って、専門用語の確認を行う。 <必要時間> 各回20分</p>		<p><内容> ワークシートを配布します。ワークシートに沿って学習内容をまとめて下さい。授業終了直前、または次回授業開始時に重要な箇所の復習をする。必ず見直すこと。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	身体運動の軸と面、および運動の名称(方向)			
2	運動器の構造と機能 (骨)			
3	運動器の構造と機能 (関節)			
4	運動器の構造と機能 (筋)			
5	運動器の構造と機能 (筋の収縮)			
6	運動器の構造と機能 (神経)			
7	生体力学の基礎1 (運動の法則, 仕事, 速度など)			
8	生体力学の基礎2 (てこ, 剛体など)			
9	生体力学を用いた計算			
10	姿勢(重心, 支持基底面)			
11	姿勢(姿勢制御・バランス)			
12	正常歩行1 (歩行周期, 歩幅, ケイデンスなど)			
13	正常歩行2 (歩行時の関節の動き, 筋活動, 重心移動など)			
14	異常歩行			
15	運動学習			
	中間試験を2回, 定期試験1回, 合計3回実施			
評価基準・評価方法				
中間試験1回目+中間試験2回目+期末試験の合計3回試験を行う。範囲はそれぞれシラバスの1~6, 7~9, 10~15です。再試験は全範囲となる。中間試験2回分と期末試験の合計点を総得点(100%)とし				
使用教科書				
基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第6版補訂--医歯薬出版, 2003年, ISBN978-4-263-21153-3 15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト運動学 / 小島悟責任編集. 中山書店, 2012年, ISBN978-4-521-73664-8				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル版筋肉と関節の仕組みがわかる事典, 竹井仁監修, 西東社, 2013 ・PTOT基礎から学ぶ運動学ノート, 中島雅美, 医歯薬出版, 2016 				
備考				
本講義は内容が濃く, 範囲が広いので3つに分けて, 知識の修得を目指す。それぞれのテスト範囲毎にしっかり取り組むこと。再試験は範囲が広がる(シラバス1~15)ので注意すること。毎回, ワークシートを配布します。授業後の復習に活用すること。				

授業科目名		担当教員		
臨床運動学		曾田 直樹		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> ヒトの関節の特徴をバイオメカニクスの観点からその動きを理解することを目的とする。またその理論に基づき骨関節機能障害学や骨関節治療技術、病態運動学、動作分析への応用を学習できることを期待する。講義ではグループでのディスカッションやディベートを行い理解を深めていく。</p> <p><学修の到達目標> 上肢の解剖学について理解できる。 下肢の解剖学について理解できる。 上肢の運動学について理解できる。 下肢の運動学について理解できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 講義予定の関節について前期で学習した解剖学、運動学を復習する。 <必要時間> 各回60分</p>		<p><内容> 講義内容の理解と暗記をする。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	概論：筋の走行と軸と面の関係、筋肉の役割について			
2	肩関節：肩甲上腕関節の機能			
3	肩関節：第2肩関節の役割について			
4	肩関節：肩甲胸郭関節の役割について			
5	肘関節：肘関節に付着する靭帯について			
6	肘関節：回内・回外運動のメカニズム			
7	手関節：掌屈・背屈のメカニズム			
8	手関節：手関節の靭帯・筋肉			
9	股関節：下肢のアライメント、股関節に付着する靭帯			
10	股関節：股関節周囲筋の役割			
11	膝関節：特徴的な動き・アライメント			
12	膝関節：筋肉、半月板の役割			
13	足関節：骨の構造、底屈・背屈のメカニズム			
14	足関節：靭帯・筋肉について			
15	上肢および下肢の解剖学と運動学について			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
<p>評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視 評価方法：中間試験(45%)、期末試験(45%)、態度・意欲(小テスト、授業参加度など)にて総合的に判断する。</p>				
使用教科書				
参考図書				
・筋骨格系のキネシオロジー 原著：Donald A 監訳：島田智明ら 医歯薬出版株式会社				
備考				

授業科目名		担当教員			
運動学演習		曾田 直樹・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保 (代表教員 曾田 直樹)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 運動学総論、臨床運動学で学んだ知識を演習によって確認する。生体が運動や動作を実施したときの反応を測定し、データを用いて研究報告レポートを作成する。測定機器は理学療法士に関連の深いものを使用しますので、その取り扱いに習熟できるよう努力して下さい。レポート作成においては、基礎知識と実際の測定データを比較し自分なりの考察をすることで、運動についての理解が深まる。グループワークを通じて運動学の理解を深める。</p> <p><学修の到達目標> グループ活動を通じて協力、報告、連絡、相談の重要性を学ぶ。 平衡機能・筋力・歩行分析を測定する意義を説明できる。 平衡機能・筋力・歩行分析を機器を用いて評価することができる。 平衡機能・筋力・歩行分析の結果の意味を考察することができる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 演習で取り扱うのは、今後臨床実習で必要になる知識であり、国家試験でも問われる内容です。1年生で学習した運動学・臨床運動学・解剖学などの内容を復習しておくこと。</p> <p><必要時間> 各回60分</p>			<p><内容> 運動学の基礎知識の定着に努めましょう。レポート作成のスキルや文献要約の力を臨床実習に活かせるように、文献を読む等の自己研さんを積むこと。</p> <p><必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	運動学演習オリエンテーション		曾田		
2	演習内容の説明		曾田		
3	レポート作成について		曾田		
4	重心動揺(意義)		大場		
5	重心動揺(測定方法)		大場		
6	重心動揺(実施)		大場		
7	重心動揺(論文作成)		大場		
8	筋機能測定(意義)		曾田・田島		
9	筋機能測定(測定方法)		曾田・田島		
10	筋機能測定(論文作成)		曾田・田島		
11	筋機能測定(論文作成)		曾田・田島		
12	歩行分析(意義)		石田		
13	歩行分析(測定方法)		石田		
14	歩行分析(実施)		石田		
15	歩行分析(論文作成)		石田		
評価基準・評価方法					
評価基準および評価方法：グループ活動への取り組み状況(10%)、研究レポートの内容(90%)					
使用教科書					
参考図書					
備考					
オフィスアワー 曾田 月曜日 12:15~13:15 大場 火曜日 16:30~17:30 田島 水曜日 16:30~17:30 石田 火曜日 16:30~17:30					

授業科目名		担当教員		
人間発達学		大森 正英		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 人間の胎生期から老年期までの身体的発達と心理的発達の主要な現象を取り上げ講義する。新生児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期の基本的な特徴について、生物学的な面のみならず社会とのかかわりの中で複雑に発達していく過程に関する理解を深め、医療関係者として必要な知識、応用技術を学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 人間の発達段階の特徴を理解する 小児期の重要性を広く理解する 発達と環境、文化との関連を正しく認識する 青年期の特徴と重要性について理解を深める 中年期～老年期の変化の実態を把握する 学んだ知識を実生活ならびに医療関連の仕事に生かす</p> <p>この授業は卒業認定・学位授与に必要。カリキュラムマップを参照すること。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 特に指定した時以外には必要ないが、素早い書写能力を鍛えておくこと。板書したものをただ書き写すだけでなく、講義内容をもとに書き込んで充実したノートを作成することを望みたい。 <必要時間> 各回 30分</p>		<p><内容> この講義は幅広く生物学、小児科学、医学、心理学、社会科学など多岐にわたる内容からなり、ノートに書く量も多いので、1回ごとに内容を確認し、復習しておくこと。 <必要時間> 各回 40分以上</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	人間の発達の特徴			
2	人間の本能と行動			
3	胎生期から誕生へ			
4	乳幼児の発育と発達			
5	子どもの身体発育発達に影響する因子			
6	身体発育の指標			
7	子どもの心の発達			
8	幼児～学童の運動機能			
9	小児栄養			
10	小児期の発達障害、疾病			
11	青年期の身体的、心理的発達			
12	中年期における心身の変化と人間としての成長、発達			
13	老年期における心身の変化と日常生活			
14	老化の進展と健康			
15	超高齢社会の人間発達学			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
<p>評価基準：専門的な知識の修得と講義内容の理解を重視。専門用語を用いて現象を理解し、説明する能力を評価する。従って、試験問題には、記述問題を半数出題する。 評価方法：筆記試験ならびに適時提出を求める課題(レポート)によって行う。評価割合はそれぞれ90%、10%</p>				
使用教科書				
人間発達学 ヒトはどう育つのか / 竹下研三.中央法規, 2009年, ISBN978-4-8058-3096-3				
参考図書				
その都度、講義時間に紹介する。				
備考				
<p>修得すべき知識が多いので、個々の知識を体系化し、相互に関連づけて記憶するように努めること。課題や試験問題に対する解説はその都度行う。在学時の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、学務課経由でお願いしたい。</p>				

授業科目名		担当教員		
病理学概論		武内 康雄・山本 容正 (代表教員 武内 康雄)		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 病気を引き起こす原因を、病気の捉え方の歴史的移り変わりとともに概論で解説する。次いで、病気の状態を大きく、代謝異常、循環障害、炎症と免疫、進行性病変、腫瘍、老化、先天異常と奇形に分類し、それぞれの病的状態に見られる変化を分かりやすく解説する。</p> <p><学修の到達目標> 変性と化生、炎症と免疫、循環障害の病態病理の概要を説明できる。 代謝障害、遺伝子異常、先天異常の概要を説明できる。 腫瘍の病理学的分類を説明でき、腫瘍発生のメカニズムや治療法を説明できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。 <必要時間> 各回20分</p>		<p><内容> 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。 <必要時間> 各回45分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	病気と病理学		武内	
2	細胞の異常 - 変性、化生、再生、修復		武内	
3	先天異常		武内	
4	循環障害(1) 循環系の働き、出血と凝固		武内	
5	循環障害(2) 虚血と梗塞、血圧異常、疾患と病態		武内	
6	代謝異常		武内	
7	老化		武内	
8	感染と感染症(1) 感染症と病原体		山本	
9	感染と感染症(2) 感染症の発症と防御機構		山本	
10	免疫機構と免疫異常(1) 免疫機構と疾患		山本	
11	免疫機構と免疫異常(2) 再生医療		山本	
12	炎症		山本	
13	腫瘍(1) 腫瘍の分類		武内	
14	腫瘍(2) 癌の特性		武内	
15	腫瘍(3) 腫瘍マーカー診断、治療		武内	
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
期末筆記試験100%				
使用教科書				
なるほど なっとく! 病理学病態形成の基本的なしくみ / 小林正伸.--第2版--南山堂, 2019年, ISBN978-4-525-15162-1				
参考図書				
大橋健一、谷澤 徹、藤原正親、柴原純二著 「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進」 (医学書院)				
備考				

授業科目名		担当教員			
内科学		近藤 直実・平野 智久・山本 眞由美・高田 信幸・坂 義人・古田 弥生 (代表教員 近藤 直実)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 内科系疾患などの病態・診察・診断・治療について、およびそのアプローチを学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 各論としては循環器系、代謝、内分泌系、消化器系、腎臓疾患、呼吸器系、血液疾患など、実際の理学療法に関連性の高い疾患を中心に学修し、概要を説明することができる。近年重要性が増している予防医学についての基礎知識の概要説明することができる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 <必要時間> 毎回30分</p>			<p><内容> 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 <必要時間> 毎回30分</p>		
回	授業計画		到達目標	担当	形態
1	循環器分野 心臓の解剖、生理や虚血性心疾患、不整脈などについて学習する。			平野	
2	循環器分野			平野	
3	循環器分野			平野	
4	代謝・内分泌分野 糖尿病の病態・機序・合併症・治療について学ぶ			山本	
5	代謝・内分泌分野 肥満・メタボリック症候群を中心に代謝疾患について学ぶ			山本	
6	代謝・内分泌分野 内分泌疾患の種類と機序について学ぶ(間脳・下垂体、甲状腺、副腎を中心に)			山本	
7	消化器分野 生体維持の基本となる消化器疾患について学ぶ。			古田	
8	消化器分野			古田	
9	腎臓器疾患 腎臓機能障害について学習する。			坂	
10	腎臓器疾患			坂	
11	呼吸器分野 呼吸器機能の基礎と呼吸器疾患全般について学ぶ。			高田	
12	呼吸器分野			高田	
13	呼吸器分野			高田	
14	呼吸器分野			高田	
15	血液疾患 血液疾患について学ぶ。			近藤	
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
定期試験 (90%)、小テスト(10%)					
使用教科書					
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 内科学 / 鎌倉矩子ほか監修.--第3版--医学書院, 2014年, ISBN978-4-260-01707-7					
参考図書					
備考					

授業科目名		担当教員		
整形外科学		西本 裕		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 運動器の外傷、疾患について、病因、経過、診断法、治療法を概説する。</p> <p><学修の到達目標> 骨、関節、靭帯、筋肉、末梢血管、脊髄、末梢神経の損傷、障害について述べるができる。 筋、骨格系の感染症、腫瘍、先天異常、発育障害、関節リウマチ、骨粗鬆症を含む代謝疾患、退行性疾患など整形外科的疾患について述べるができる。 特に、脊椎固定術、人工関節置換術を中心に生体内人工材料にとって必要な条件、体内での経過について理解できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 解剖学、生理学、病理学概論の知識の確認 <必要時間> 毎回30分</p>		<p><内容> 講義内容の整理と確認 <必要時間> 毎回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	運動器の外傷、障害 総論			
2	上肢の外傷、障害			
3	下肢の外傷、障害			
4	区画症候群、複合性局所疼痛症候群			
5	体幹の外傷、障害			
6	脊髄損傷			
7	骨関節感染症			
8	関節リウマチ			
9	関節退行性疾患			
10	循環障害、骨端症			
11	先天異常、発育障害、神経筋疾患、側弯症			
12	骨粗鬆症を含む代謝疾患			
13	骨・軟部腫瘍			
14	脊椎退行性疾患、絞扼性神経障害			
15	生体内人工材料			
	定期試験 (筆記)			
評価基準・評価方法				
毎回のミニテスト(50%)、定期試験(50%)				
使用教科書				
標準整形外科学 / 中村利孝ほか監修.--第13版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02537-9				
参考図書				
備考				

授業科目名		担当教員			
神経内科学		木村 暁夫・下畑 享良・林 祐一・山田 恵・吉倉 延亮・伏屋 公晴 (代表教員 木村 暁夫)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏入
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 神経内科で扱う神経疾患の病態・診断・治療法について学び、理解を深める。 個々の神経疾患における障害部位・認められる神経学的異常所見・異常検査所見に関し理解を深める。 個々の神経疾患の治療の現状およびリハビリテーションの意義・注意点を理解する。</p> <p><学修の到達目標> 個々の神経疾患の疾患名と病態に関し理解し、診断・治療法に関して具体的に説明できる。 個々の神経疾患におけるリハビリテーションの必要性和施行時の注意点を理解できる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 1) 使用教科書の各授業に関連した項目に目を通す 2) 神経解剖に関する教材(参考図書参照)にあたり、中枢神経末梢神経、筋の構造や神経伝達路(錐体路・錐体外路・脊髄視床路など)の役割や場所を理解する。 <必要時間> 各回60分</p>			<p><内容> 1) 各授業で配布される添付資料に目を通し、関連する内容や不明な点に関し、参考図書などをを用い学習する 2) 各授業内容に関連する国家試験問題に目を通す <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	神経変性疾患 (パーキンソン病)		下畑		
2	神経変性疾患 (パーキンソン関連疾患)		下畑		
3	神経変性疾患 (脊髄小脳変性症)		林		
4	神経変性疾患 (運動ニューロン疾患)		下畑		
5	認知症(アルツハイマー型認知症)		吉倉		
6	認知症(非アルツハイマー型認知症)		吉倉		
7	免疫性神経疾患(重症筋無力症など)		木村		
8	免疫性神経疾患(多発性硬化症など)		木村		
9	末梢神経障害		山田		
10	末梢神経障害		山田		
11	筋疾患		林		
12	筋疾患		林		
13	頭部外傷・脊髄損傷		伏屋		
14	脳腫瘍		伏屋		
15	脳炎・脳症		木村		
	定期試験 筆記				
評価基準・評価方法					
定期試験(80%)、授業への取り組み姿勢(20%)など総合的に判断					
使用教科書					
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 / 鎌倉矩子ほか編集.--第5版--医学書院, 2019年, ISBN978-4-260-03817-1					
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> 臨床のための脳局所解剖学(中外医学社) 神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療第5版(医学書院) 全ての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた、考え方とその対応(羊土社) 					
備考					
理学療法士 作業療法士国家試験問題解答と解説(医師薬出版編)					

授業科目名		担当教員		
精神医学		宮地 幸雄		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p>< 概要 > 精神疾患についての基本的知識並びに精神疾患を罹患した人との基本的な援助方法を学ぶ。</p> <p>< 学修の到達目標 > 臨床場面で援助方法の基本が活用できるようになる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p>< 内容 > 教科書の該当部分を確認する。 < 必要時間 > 各回30分</p>		<p>< 内容 > 授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。 < 必要時間 > 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	人が生きるということについてを考える。			
2	自殺について			
3	精神医学の歴史について			
4	こころの発達と防衛機制について			
5	臨床心理検査について			
6	よくみられる精神症状についてーその1			
7	よくみられる精神症状についてーその2			
8	統合失調症についてーその1			
9	統合失調症についてーその2			
10	感情障害について			
11	心因性精神障害について			
12	知的障害・発達障害について			
13	心理療法について			
14	チームアプローチについて			
15	医療従事者の姿勢について			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
定期試験で評価する				
使用教科書				
精神医学テキスト - 精神障害の理解と治療のために / 上島国利ほか著.--改訂第4版--南江堂, 2017, ISBN978-4-524-25942-7				
参考図書				
備考				
講師は臨床心理士。非医師であるが、精神科病院での事例を提示し臨床現場の話をしてみたい。				

授業科目名		担当教員		
小児科学		近藤 直実・近藤 富雄・堀田 亮 (代表教員 近藤 直実)		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 小児はただ単に体の小さな成人ではなく、つねに成長発達をする存在である。罹患しやすい疾患についても年齢によって異なる。このような小児の特徴を理解することが重要である。</p> <p><学修の到達目標> 胎児・新生児期および小児特有の生理・病態生理を理解し、説明することができる。 胎児から子供の誕生、そして成長し次世代の子供を持つまでをひとつのLife cycle と捉え、この成長過程における生理と病態生理を理解し、説明することができる。 子供のCommon Disease ,特有な疾患を理解し説明することができる。すなわち、子供がよく罹患する疾患、頻度は低い子供特有な疾患について病態・診断・治療、予防法を学ぶ。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 <必要時間> 毎回30分</p>		<p><内容> 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 <必要時間> 毎回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	小児科概論 成長と発達		近藤(直)	
2	成長と発達		近藤(直)	
3	新生児と疾患		近藤(直)	
4	先天異常 遺伝病		近藤(直)	
5	神経、筋疾患		近藤(直)	
6	神経、筋疾患		近藤(直)	
7	循環器疾患		近藤(直)	
8	消化器疾患、内分泌疾患		近藤(直)	
9	血液疾患、腫瘍性疾患		近藤(直)	
10	腎、泌尿器疾患、目、耳の疾患 等		近藤(直)	
11	呼吸器疾患		近藤(富)	
12	感染症		近藤(富)	
13	アレルギー免疫疾患		近藤(富)	
14	こころの病気、障害		堀田	
15	発達、心理検査		堀田	
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
定期試験(80%)、小テスト(20%)				
使用教科書				
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学 / 奈良 勲ほか監修.--第5版--医学書院, 2018年, ISBN978-4-260-03434-0				
参考図書				
備考				
資料などにて補足説明を行う。				

授業科目名		担当教員		
リハビリテーション医学		西本 裕		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 疾病と障害の違い、障害のとらえ方を理解する(1, 2, 4)。 脳血管障害のリハビリテーションについて理解する(3, 5-8)。 内部障害のリハビリテーションについて理解する(9, 10) 運動器リハビリテーションについて理解する(11, 12) 感覚器障害のリハビリテーションについて理解する(13) リハビリテーションの根拠について考察し、創造的な思考を養う(14, 15)。</p> <p><学修の到達目標> 医療、福祉の領域でリハビリテーション医学の立場を説明することができ、実践時にどのように応用されているかについて述べるができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書の該当部分を確認 <必要時間> 毎回30分</p>		<p><内容> 講義内容の整理と確認 <必要時間> 毎回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	リハビリテーションの実際			
2	運動学・生理学			
3	脳卒中のリハビリテーション(ADL障害、QOLについて)			
4	障害分類、FIM(Functional Independence Measure)			
5	高次脳機能障害			
6	運動療法			
7	嚥下障害のリハビリテーション			
8	排尿障害のリハビリテーション			
9	心疾患のリハビリテーション			
10	呼吸器のリハビリテーション			
11	切断と義足・義手			
12	装具・杖と車椅子			
13	平衡機能障害・聴力障害・視力障害			
14	障害者スポーツ			
15	廃用症候群			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
毎回のミニテスト(50%)、定期試験(50%)				
使用教科書				
PT・OT・ST・ナースを目指すひとのためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 / 椿原彰夫編著.--改訂第3版--診断と治療社, 2017年, ISBN978-4-7878-2345-8				
参考図書				
義肢装具のチェックポイント 第8版 医学書院 日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会 ISBN978-4-260-01744-2				
備考				

授業科目名		担当教員		
老年医学		岡野 幸雄		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択必修	1年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 老化と疾病は密接な関係にあり、その両面から障害を捉えなければならない。この講義では老化についての生理学的変化や能力的変化を整理し、老年期症候群、認知症、廃用症候群など高齢者特有の疾患について解説する。さらに種々の疾患について高齢者の特徴を概説するとともに、容易に寝たきりに移行しうる危険性が高いことについて触れる。</p> <p><学修の到達目標> 高齢者の生理的・病的変化を理解し、老年症候群の症状を10以上挙げて説明できる。 高齢者に多い循環器・呼吸器・消化器・骨運動器・精神・神経・内分泌・血液免疫・腎泌尿器・皮膚口腔・耳鼻咽喉・眼疾患について、疾患を挙げて説明できる。 高齢者の医療・看護・介護・福祉について理解し、リハビリテーション・終末期医療について説明できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。 <必要時間> 各回30分程度</p>		<p><内容> 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。 <必要時間> 各回45分程度</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	老化と老年病の考え方、加齢に伴う生理機能の変化			
2	加齢に伴う運動機能・精神心理面の変化、性差医療からのアプローチ			
3	高齢者の定義および人口動態、j高齢者との接し方、高齢者の機能評価			
4	高齢者の薬物療法の考え方、高齢者に多い症候と老年症候群			
5	老年症候群、循環器疾患			
6	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、骨・運動器疾患			
7	呼吸器疾患、消化器疾患、骨・運動器疾患			
8	骨・運動器疾患、神経疾患			
9	精神疾患、内分泌代謝疾患			
10	内分泌代謝疾患、血液免疫疾患			
11	腎疾患、泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患			
12	感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患			
13	東洋医学・老年学からのアプローチ、社会学・経済学から見た高齢社会			
14	高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健、高齢者のリハビリテーション			
15	高齢者の退院支援、高齢者の終末期医療			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
期末筆記試験100%				
使用教科書				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 / 大内慰義編.--第4版--医学書院, 2014年, ISBN978-4-260-01984-2				
参考図書				
適時紹介する。				
備考				

授業科目名		担当教員		
スポーツ医学		松岡 敏男		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		選択必修	1年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> スポーツ医学は医学面とスポーツ科学の両面から考える大事な学問であることを理解し、スポーツ医学に関して知識を深める。スポーツ医学はスポーツ選手の競技力向上や健康増進に役立て、良いコンディション作りを行う事に理解を深める。医療現場ではアスレティックリハビリテーションとしてリハビリテーションの重要性に理解を深める。外科的及び内科的なスポーツ疾患に理解を深める。運動時の身体的変化・効果を理解する(運動生理学の理解)</p> <p><学修の到達目標> スポーツの現場で競技力向上に役立てるコンディショニング作りの方法を学ぶ。 スポーツ医療現場ではリハビリテーションのノウハウを学び、実践できる。 スポーツ全般(スキル、メカニズム、フィットネス)の動作と障害の関係性に関することを理解できる。 スポーツ全般的な生理学の基礎知識(神経、筋、代謝、循環、内分泌、栄養)を理解する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> シラバスの内容に従って授業内容を把握し、事前に予習をしてください。スポーツ医学全般に聞きなれない言葉があるとその学習の理解を狭めます。そのためスポーツ医学・スポーツ科学の知識や共通理解を深めるためにシラバスに掲載されている事項に関して予習が必要です。 <必要時間> 各回90分</p>		<p><内容> 必ず講義の復習を行い、講義の内容の理解と共に総合的な理解を深める。解剖・生理学の基礎的な知識を活かし、運動機能を十分に理解し、スポーツ医学全般にそしてスポーツ傷害などのメカニズムを理解してください。復習することで総合的により理解が深まるため、必ず行ってください。 <必要時間> 各回90分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	スポーツ医学概論(スポーツドクター、アスレチックトレーナーについて)			
2	スポーツと運動生理学(運動による神経・筋について)			
3	スポーツと運動生理学(運動による呼吸・循環・内分泌・代謝について)			
4	スポーツ心理(メンタルトレーニングの必要性)について			
5	スポーツ栄養学について			
6	ドーピング(アンチ・ドーピング)について			
7	トレーニング理論・トレーニング実践について			
8	コンディショニング(オーバートレーニング・テーピング・アイシング・マッサージ)について			
9	運動処方(メディカルチェック・アスレティックリハビリテーション)について			
10	子供・女性・高齢者のスポーツ医学について			
11	スポーツと内科的疾患(突然死・熱中症など)について			
12	内科的疾患と運動・スポーツについて			
13	スポーツと外科的疾患(部位別疾患)			
14	スポーツと外科的疾患(部位別疾患)			
15	特殊環境の傷害・スポーツ救急について			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
定期試験(100%)による評価				
使用教科書				
スポーツ指導者のためのスポーツ医学 / --改訂第2版--南江堂, 2009年, ISBN978-4-524-24034-0				
参考図書				
授業中に補足のプリントを配付します。				
備考				
資料、パワーポイントを使用し、説明を行います。 オフィスアワー：授業終了後に質問の時間を取ります。また質問紙による質問には、次回の授業時に回答します。				

授業科目名		担当教員		
保健医療論		松岡 敏男		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(15時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 現在、健康や医療に関する情報が氾濫している。多くの情報の何が正しいのか、自分に本当に役にたつのか、また何をを取り入れ、実践すれば健康を維持、増進させることができるのか戸惑うばかりである。健康に良いとされていることであっても間違った方法を実践すれば健康を害することもある。また生活習慣により引き起こされる疾病も多く、日常生活の重要性を考えさせられる。学生時代に正しい健康観を学ぶこと、並びによりよいライフスタイルを身につけ、健康生活を実践できるようにすること、医療に関するいろいろな問題に正しく理解が出来るような講義を行う。</p> <p><学修の到達目標> 学生として将来に継続できる正しい健康感を身につけ、よりよい生活習慣の実践を行い、健康的な生活ができるように健康を学習する。そしてそのために努力できるように心がける態度を身につける。活力ある学生生活とはどのようなものを理解する。また医療制度に関心を持ち、自分たちで解決できることを考え、より良いものにするための方向を模索する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 健康・医療に関することを事前に考えて、調べること。健康・医療に関連している色々な分野を自分なりに調べまとめる。講義を通じて自分なりの健康感を確立する努力をする。講義に対してどのような疑問点でも良いので、考えること。 <必要時間> 各回90分</p>		<p><内容> 健康・医療という身近な問題をテーマにしていますが、納得するだけの授業ではなく、関連することを積極的に調べ、実践する姿勢で学習(復習)を行うこと。また自分で関連事項に関して事後に纏め、幅広い知識にする。ぜひとも学び総合的に考えをまとめ、実践し活かせるようにすること。 <必要時間> 各回90分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	健康について(健康感・医療・福祉など)			
2	健康について(睡眠、日光浴、タバコ、温泉)			
3	健康について 運動の効果 ウォーキング・ジョギング			
4	運動処方・療法 ダイエットの功罪			
5	生活習慣病 - 肥満、糖尿病			
6	生活習慣病 - 高血圧、脂質異常、高尿酸血症			
7	高齢者・中年の健康・生活について			
8	医療・保健に関して			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
定期試験(100%)により評価する。				
使用教科書				
教科書は使用しない。				
参考図書				
毎回授業に関するプリントを配付する。シラバスに掲げている関係事項についていろいろな書物や参考に記事などを調べる。				
備考				

授業科目名		担当教員		
社会福祉学		竹内 章郎		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(15時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 現在、社会福祉を含む社会保障全体が、大きな転換点にある。それは、社会保障を支える福祉国家体制それ自体の「危機」という大きな問題からくるものであるが、同時に、社会保障の基盤である社会権(法)の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係などにも及び問題から生じていることもある。この講義ではそうした大きな問題を、社会福祉の現場実践と関係づけて捉えることを通じて、社会福祉・社会保障の本質を解明したい。</p> <p><学修の到達目標> 社会福祉を含む社会保障の現実を、その基礎に立ち返って理解する。 大きな制度的問題と社会福祉実践の現実とを結び付けて理解する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 事前に配布する講義資料を熟読すること。 <必要時間> 各回90分</p>		<p><内容> 終了し講義ごとに、配布資料に基づいて必ず復習をすること。 <必要時間> 各回90分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	ガイダンス(全体の進行について)、社会福祉と社会保障との関連について(善き生存としての福祉を中心に)			
2	日本の社会保障・社会福祉の基礎:憲法25条(13条との関連):プログラム規定・義務規定/行政裁量の理解			
3	福祉国家体制の由来、措置制度と契約制度、福祉職と医療職、福祉の民営化・市場化問題			
4	権利としての社会保障(1):市民権と社会権との相違、私的所有と市民権			
5	権利としての社会保障(2):社会権の基礎、憲法14条との関連、申請主義の問題			
6	福祉六法体制とそれ以降、戦後日本の社会保障制度の流れ			
7	貧困問題と生活保護、社会手当制度、労災保険制度、雇用保険制度、年金保障制度			
8	障害者福祉制度、子ども手当制度、高齢者福祉制度(公的介護保険制度)			
評価基準・評価方法				
最終のレポートによって評価する。講義内容の正確な理解に加えて、内容を表現する文章力も評価の対象とする。				
使用教科書				
教科書は使用せず、竹内が作成したレジュメ及び資料にそって講義を行う。				
参考図書				
必要に応じて、講義中に紹介する。				
備考				
資料及びレジュメは、すべて、最初の講義時に配布する。				

授業科目名		担当教員		
医療安全管理論		伊川 順子		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 近年、医療界における「安全」は最重要のキーワードである。理学療法士・作業療法士・視機能療法士に必要な留意点を具体的に学び、リスク感性の向上につなげることを目標とする。講義内容は、医療安全に関する主な動向、医療安全プログラムの中から感染防止・制御、環境安全・衛生、ヒューマンエラー、事故発生時の対応等を取り上げ、また理学・作業・視機能療法が提供される在宅や福祉施設での必要な知識の習得を目指す。</p> <p><学修の到達目標> 安全性の確保に結びつけられる知識と、リスク感性の向上につなぐことができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 医療に関するマスコミ報道(新聞・テレビ・ラジオ・ネット情報)に関心を持ち、自分なりの方法で調べる。 必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 振り返り学習(自分だったら・・・相手だったらどうするか? 自分だったら・・・相手はどのように考えるか?) <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	医療安全の概要と動向			
2	医療における安全管理とは(患者の安全確保と医療従事者の安全確保)			
3	感染予防に必要な基礎知識			
4	医療従事者と個人情報保護法令			
5	理学・作業・視機能療法と危険予防の必要性(KYT)			
6	医療者に必要な基礎的法知識			
7	医療安全管理とコミュニケーション			
8	医療安全を高める組織的な取り組み			
9	5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ(習慣)活動) SBAR(コミュニケーションスキル)			
10	医療安全対策: 接遇 感染対策(予防)			
11	事故発生時の体制づくり			
12	医療安全確保の考え方・手法(RCAの基礎知識)			
13	危機管理(クレーマー・クレーム対応)			
14	医療安全総集(新聞報道・医療安全かるた)			
15	課題検討			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
履修態度(20%)、筆記試験(80%)での総合評価				
使用教科書				
特別使用しないが、必要時書籍紹介 毎回、パワーポイント使用				
参考図書				
医療安全(医学書院)等、その他の書籍適宜紹介 RCAの基礎知識お活用事例、等その他適宜紹介 学研eラーニング 厚生労働省の医療安全研修資料				
備考				
理学・作業・視機能療法士は若年者から高齢者まで、あらゆる年齢層に関わる専門職である。よって年齢に応じた特性等、他教科と関連性も踏まえて、幅広い視点での学習が必要となる。事前学習などで、自ら学び取る姿勢で授業に臨んでほしい。 (大声での雑談等で、授業を乱す学生は状況により退室とするが、教室全体の問題として当事者学生以外の学生に判断を委ねる)				

授業科目名		担当教員		
理学療法総論		長谷部 武久		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> この講義を通じて、理学療法の対象となる「障害」の概略、その「障害」に対する運動療法について運動生理学の観点から学び見識を深める。そして理学療法の過程に関する理解が深まるとともに、理学療法士を目指す動機が更に高まることを期待する。この科目は専門科目「理学療法基礎用語」「運動療法総論」を学ぶ上での基礎となる。</p> <p><学修の到達目標> 「障害」について述べることができる 理学療法の過程について述べるができる 運動療法の理論的背景(運動生理学)を理解できる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 初回授業で資料を配布するので、授業計画に従って各授業前にその内容を確認すること。 <必要時間> 各回15分</p>		<p><内容> 専門科目「理学療法基礎用語」で学んだ知識と関連させて復習すること。 <必要時間> 各回15分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	オリエンテーション(授業の進め方, 成績評価について)			
2	理学療法士及び作業療法士法			
3	理学療法の対象			
4	障害について(機能障害)			
5	障害について(能力障害)			
6	障害について(社会的不利益)			
7	理学療法の対象疾患			
8	理学療法の過程			
9	運動療法と物理療法			
10	エネルギー代謝と酸素摂取量			
11	運動負荷と酸素摂取量			
12	正常循環機能と運動負荷に伴う生理的变化			
13	正常呼吸機能と運動負荷に伴う生理的变化			
14	正常末梢機能と運動負荷に伴う生理的变化			
15	運動処方(目標)			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
小テスト10%、筆記試験90%				
使用教科書				
配布資料				
参考図書				
・基礎運動学 第6版 医歯薬出版				
備考				
授業終了後やメールにて質問を受け付ける。 E-mail; t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員			
理学療法演習		植木 努・石田 裕保・藤橋 雄一郎・辻 圭一 (代表教員 植木 努)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	2単位(30時間)	講義 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 学生主体によるPBL形式でのグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。理学療法を受ける患者を想定したシナリオから、自ら疑問を持ち自己学習による解決を目指すことで、学習方法を知り遂行する能力を身につける事を目的とする。またその体験を通じて将来、医療に携わる人間としての資質(態度)を身に付けられるよう、学生相互の交流・理解が行えるよう工夫する。</p> <p><学修の到達目標> 自己学習の習慣をつける 問題解決能力を身につける 理学療法の業務を理解する</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 肩関節や肘関節の解剖や運動学などについて、他の講義で習った内容の復習を行ってから授業に臨むこと。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> グループで挙げた学習項目について教科書や文献を用いて、自己学習用紙にまとめること。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画		到達目標	担当	形態
1	PBLについて コアタイムの進め方と自己学習方法について			植木	
2	プレゼンテーション方法について			藤橋	
3	肩関節コースシナリオ コアタイム			石田、藤橋、辻、植木	
4	肩関節コースシナリオ 自己学習内容のディスカッション			石田、藤橋、辻、植木	
5	肩関節コースシナリオ コアタイム			石田、藤橋、辻、植木	
6	肩関節コースシナリオ 自己学習内容のディスカッション			石田、藤橋、辻、植木	
7	肩関節コースシナリオ コアタイム			石田、藤橋、辻、植木	
8	肩関節コースシナリオ 自己学習内容のディスカッション 発表準備			石田、藤橋、辻、植木	
9	肩関節コース グループ発表			石田、藤橋、辻、植木	
10	肘関節コース・手関節コース シナリオ コアタイム			石田、藤橋、辻、植木	
11	肘関節コース・手関節コース シナリオ 自己学習内容のディスカッション			石田、藤橋、辻、植木	
12	肘関節コース・手関節コース シナリオ コアタイム			石田、藤橋、辻、植木	
13	肘関節コース・手関節コース シナリオ 自己学習内容のディスカッション 発表準備			石田、藤橋、辻、植木	
14	肘関節コース・手関節コース グループ発表			石田、藤橋、辻、植木	
15	肩関節コース・肘関節コース・手関節コースのレポート作成			石田、藤橋、辻、植木	
評価基準・評価方法					
コアタイム評価(50%) 自己学習課題(25%) グループ発表(15%) レポート(10%)					
使用教科書					
プリント資料を配布する。					
参考図書					
適時紹介する。					
備考					
講義は少人数に分かれて行う。グループ等は随時連絡する。特にディスカッション参加、自己学習課題の提出が重要になる。自分の意見や考えを他者に伝える能力が医療職として必ず必要になります。その能力を養えるよう積極的に講義に参加すること。グループ発表についてはその場でフィードバックを行います。その他教員がいるときはいつでも質問は受け付けます。					

授業科目名		担当教員		
運動療法総論		長谷部 武久・河合 克尚 (代表教員 長谷部 武久)		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要>「理学療法総論」「理学療法演習」「理学療法基礎用語」で修得した理学療法(運動療法)についての知識や考え方をもち、PBL方式によるグループ学習(症例検討)、プレゼンテーション等を通して自己学習能力およびコミュニケーション能力を養う。また「解剖学演習」で学ぶ下肢の解剖学の知識を関節可動域訓練や筋力増強訓練など理学療法の臨床に応用する。</p> <p><学修の到達目標> 自己学習能力およびコミュニケーション能力を身につける 下肢関節の解剖学的知識を踏まえて、その疾患・外傷に対するリハビリテーションに展開できる 今まで学んだ解剖学・生理学的知識を運動療法に応用できる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 各関節初回時に資料を配付するので、内容を確認すること。 12~13回目は使用教科書の該当ページを読んでおくこと。 <必要時間>各回15分</p>		<p><内容> グループで話し合われた内容に関して、必ず自己学習をした上で次回のディスカッションに参加すること。 <必要時間>各回15分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	オリエンテーション・股関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
2	股関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
3	股関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
4	股関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
5	プレゼンテーション			
6	膝関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
7	膝関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
8	膝関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
9	膝関節疾患の理学療法(症例検討)に関するPBL			
10	グループ発表			
11	下肢関節疾患に対する理学療法について			
12	運動療法の理論的背景			
13	運動療法の理論的背景			
14	理学療法評価体験(2年生と合同)			
15	運動療法の実際			
評価基準・評価方法				
レポート50%、グループ学習への参加度50%				
使用教科書				
1 5 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 運動療法学 / 解良武士ほか編集. 中山書店, 2014年, ISBN978-4-521-73671-6				
参考図書				
・基礎運動学 第6版 医歯薬出版				
備考				
授業終了後やメールにて質問を受け付ける。 t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員		
理学療法基礎用語		藤橋 雄一郎		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 本講義では、医療・医学、特に理学療法(リハビリテーション)に関する用語・知識・理解を深め、医学書籍(特に理学療法関連)等に記載されている内容の理解を深めます。理学療法(士)の歴史や役割、業務内容、必要な知識、求められる人間性等にも触れます。グループディスカッションにて自らの意見を述べたり、他者の意見を聴き、理学療法(士)について考えていきます。グループディスカッションでは、積極的に意見を述べましょう。</p> <p><学修の到達目標> 理学療法について理解する 理学療法(医療)専門用語について理解する 理学療法(医療)専門用語を用いて説明することができる</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 理学療法(士)に必要な用語が頻出します。充実した時間を得るために、教科書に一読し不明な用語等は調べておきましょう。 <必要時間> 各回20~30分</p>		<p><内容> 講義内容を再確認しましょう。専門科目、臨床実習前に本講義を再確認しましょう。 <必要時間> 各回20分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	オリエンテーション これから学ぶ理学療法(医療)とは			
2	理学療法士に求められる要素			
3	リハビリテーション・理学療法の歴史			
4	理学療法士法および作業療法士法			
5	理学療法士の職域、職能団体			
6	リハビリテーション関連職種			
7	世界の理学療法			
8	疾患と障害の分類(国際疾病分類・国際生活機能分類)			
9	理学療法の進め方			
10	理学療法における対象者評価			
11	理学療法における対象者評価			
12	補装具・自助具の活用			
13	関連法規・制度(医療保健・介護保険)			
14	理学療法の対象疾患・障害者スポーツについて			
15	理学療法に関連する様々な用語			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
評価方法は、定期試験85%、講義確認テスト10%(随時実施)、授業参加度(出席状況)5%で判定します。				
使用教科書				
PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 / 庄本康治編.--第1版--羊土社, 2017年, ISBN978-4-7581-0224-7				
参考図書				
リハビリテーション総論(診断と治療社) 国家試験共通問題頻出キーワード1800(南江堂)				
備考				
質問等は来室、メールなどで随時受け付けます。 担当教員メールアドレス:y.fujihashi@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員		
理学療法研究方法論		長谷部 武久		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 3年次選択科目「卒業研究」を見据えて、研究計画の立案及び研究を進める上で必要となる基礎的知識について学ぶ。研究計画及び方法、研究における客観性・信頼性・妥当性の意味、計測値の意味と統計学の重要性など、研究基本概念について理解する。PBL方式によるグループ学習、プレゼンテーション等を通して自己学習能力およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p><学修の到達目標> 研究を行う意義、そして研究デザインについて述べるができる 論文・文献を検索することができる 研究計画を立案できる 自己学習能力およびコミュニケーション能力を身につける</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 初回授業で資料を配布するので、授業計画に従って各授業前にその内容を確認すること。 <必要時間> 各回15分</p>		<p><内容> グループで話し合われた内容に関して、必ず自己学習をした上で次回のディスカッションに参加すること。 <必要時間> 各回15分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	オリエンテーション、研究を行う意味や論文の種類について			
2	「科学的根拠に基づいた理学療法」についてのグループディスカッション			
3	論文・文献検索の方法			
4	論文の構成・研究デザインに関するグループ学習			
5	論文の構成・研究デザインに関するグループ学習			
6	論文の構成・研究デザインに関するグループ学習			
7	論文の構成・研究デザインに関するグループ発表と双方向対話型小テスト			
8	論文の妥当性や信頼性に関するグループ学習			
9	論文の妥当性や信頼性に関するグループ学習			
10	論文の妥当性や信頼性に関するグループ学習			
11	論文の妥当性や信頼性に関するグループ発表と双方向対話型小テスト			
12	研究で用いられる数値や統計手法に関するグループ学習			
13	研究で用いられる数値や統計手法に関するグループ学習			
14	研究で用いられる数値や統計手法に関するグループ学習			
15	研究で用いられる数値や統計手法に関するグループ発表と小テスト			
評価基準・評価方法				
レポート50%、小テスト50%				
使用教科書				
資料を配布する				
参考図書				
<ul style="list-style-type: none"> ・内山靖 編集 標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版 医学書院 ・適宜紹介する 				
備考				
<p>課題レポートはメールにて提出。提出後、速やかにメールにて返却する。 授業終了後やメールにて質問を受け付ける。 E-mail; t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp</p>				

授業科目名		担当教員			
理学療法学特論		河合 克尚・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・辻 圭一 (代表教員 河合 克尚)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 前学期	1単位(30時間)	演習 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><内容> 理学療法学特論 では、理学療法の基礎となる解剖・生理・運動学をはじめとして、2年次までの各科目で習得した知識の整理を図り、それぞれの知識を理学療法と関連付けて考える。そのために課題や確認テストの実施し理解を深める。また、重要な用語についてはペアシア学習を通して知識の定着を図る。</p> <p><学修の到達目標> 神経系(中枢・末梢)の解剖とその機能を深め、理学療法に応用できる。 運動学 神経伝達や運動力学の理解を深める。 ヒトの運動学的発達過程を捉えること。また理学療法の対象となる代表的小児疾患の病態を把握する。 呼吸器系・循環器系の解剖や機能(特に運動時の生体反応)の理解を深め、理学療法に応用できる。 中枢神経の機能について基礎知識を整理し、高次脳機能の仕組みと障害のさらなる理解に発展させる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 解剖学・生理学・運動学を中心に2年次までの復習をしておくこと。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 臨床実習 において、対象疾患について必要な専門基礎知識を整理するとともに、専門知識との関連性を確認する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	解剖学(神経系)		藤橋		
2	解剖学(神経系)		藤橋		
3	解剖学(神経系)		藤橋		
4	運動学		石田		
5	運動学		石田		
6	運動学		石田		
7	人間発達学・小児科学		辻		
8	人間発達学・小児科学		辻		
9	人間発達学・小児科学		辻		
10	解剖学(内臓系)、生理学(植物機能)		河合		
11	解剖学(内臓系)、生理学(植物機能)		河合		
12	解剖学(内臓系)、生理学(植物機能)		河合		
13	生理学(動物機能)		大場		
14	生理学(動物機能)		大場		
15	生理学(動物機能)		大場		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
<p>評価方法は、定期試験(100%)とする。 (確認テストは授業内容の理解を確認するために実施し、定期試験にも出題する。)</p>					
使用教科書					
<p>基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第6版補訂--医歯薬出版,2003年,ISBN978-4-263-21153-3 ・2年次までに使用した教科書全般</p>					
参考図書					
<p>・クエスチョンバンク(MEDICMEDIA) ・ポケットマスターPT/OT国試必修ポイント2018(医歯薬出版) ・PT・OT 国家試験共通問題頻出キーワード1800(南江堂)</p>					
備考					
<p>確認テストに対するフィードバック(解説)は授業内に行います。 質問等がある場合は、授業終了後やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。</p>					

授業科目名		担当教員			
理学療法学特論		河合 克尚・大場 かおり・石田 裕保・藤橋 雄一郎・辻 圭一 (代表教員 河合 克尚)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 理学療法学特論 では、専門基礎および専門知識に関する各科目で習得した知識の定着を図り、これらの知識を応用して理学療法と関連付けて考える。そのために課題を提示し、グループワークを通して専門基礎および専門知識の理解を深める。また、重要な用語についてはペアシェア学習を通して知識の定着を図る。</p> <p><学修の到達目標> 3年次前期までに習得した専門基礎および専門知識の理解を深め、理学療法に応用できる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 臨床実習 ・ において、対象疾患について必要な専門基礎知識を整理するとともに、専門知識との関連性を確認しておくこと。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 臨床で活かせるように、専門基礎および専門知識を理学療法の臨床場面と関連付けて考えられるようにする。そのために、臨床実習 ・ での経験と統合し、理学療法についての理解を深める。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画		到達目標	担当	形態
1	理学療法評価学			河合	
2	基礎理学療法学			河合	
3	内部機能障害学			河合	
4	運動療法(基本介入手段)			大場	
5	物理療法学			大場	
6	精神医学、臨床心理学			大場	
7	義肢装具学			石田	
8	日常生活動作学			石田	
9	生活環境論			石田	
10	脳・神経機能障害学			藤橋	
11	脳・神経機能障害学			藤橋	
12	神経筋系障害学			藤橋	
13	運動機能学			辻	
14	骨・関節機能障害学			辻	
15	発達機能障害学			辻	
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
<p>評価方法は、定期試験(100%)とする。 (確認テストは授業内容の理解を確認するために実施し、定期試験にも出題する。)</p>					
使用教科書					
<p>基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第6版補訂--医歯薬出版,2003年,ISBN978-4-263-21153-3 ・2年次までに使用した教科書全般</p>					
参考図書					
<p>・クエスチョンバンク(MEDICMEDIA) ・ポケットマスターPT/OT国試必修ポイント2018(医歯薬出版) ・PT・OT 国家試験共通問題頻出キーワード1800(南江堂)</p>					
備考					
<p>授業では質問等がある場合は、授業中やオフィスアワー等を活用して下さい。 グループワークを行います。積極的に取り組んで下さい。</p>					

授業科目名		担当教員			
卒業研究		曾田 直樹・大場 かおり・田島 嘉人 (代表教員 曾田 直樹)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		選択	3年 前学期	2単位(30時間)	演習
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 卒業研究では、これまでに履修した知識と技術を基に研究課題を決め、各種研究手法に沿った測定や調査を実施、分析、検証を加え、教員の指導の下研究論文を完成させる。論文作成に至るまでの調査の方法、手続き、実施法、結果の統計処理、文献検索の方法等を指導する。グループワークやディスカッションを通じて、研究者および高度な臨床実践者としての基本的能力を修得することを目指す。</p> <p><学修の到達目標> 研究計画の立案、実施し、論文作成まで行うことができる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 各回の課題(テーマ決め・文献収集・実験)について文献などで深く追求しておく。 <必要時間> 各回60分</p>			<p><内容> 各回の課題について失敗や不備について反省し、改善する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	オリエンテーション(卒業研究の概要、研究活動の意義、論文の書き方について)				
2	統計について、文献検索について、研究に必要な機器について				
3	研究テーマについて				
4	研究テーマについて				
5	予備実験または文献収集				
6	予備実験または文献収集				
7	実験または文献収集				
8	実験または文献収集				
9	実験または文献収集				
10	実験または文献収集				
11	論文作成				
12	論文作成				
13	論文作成				
14	論文作成				
15	論文作成				
評価基準・評価方法					
評価基準および評価方法：論文の完成度(100%)					
使用教科書					
参考図書					
備考					
オフィスアワー	曾田	月曜日	12:15~13:15		
	大場	火曜日	16:30~17:30		
	田島	水曜日	16:30~17:30		

授業科目名		担当教員			
クリニカルリーズニング		堀 信宏・長谷部 武久・曾田 直樹 (代表教員 堀 信宏)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		選択	3年 前学期	2単位(30時間)	演習 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 理学療法を実施するに当たり、患者の持つ障害を把握し、問題点を明らかにする事は重要である。その為の情報収集手段として評価がある。評価は、単に疾病だけでなく障害を持つ前の状況、活動歴、スポーツ歴などが影響し、退院後の生活に影響する。そのような視点に基づきゴールの設定、治療プラン、住宅改造、家族指導などの必要性が見えてくるものである。正確な測定法の実施から実際のプランを導く為の考え方・視点を学習する。内部疾患、中枢疾患、整形疾患の3系統に分けて学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 症例検討を通じて様々な問題解決へ導くための理学療法診断が行えるようにする。設問を解釈しながら臨床で必要な知識を整理する。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 各障害学、治療技術、物理療法学などを復習しておくこと。その知識を用いて、検討を加える。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 実習、国家試験に役立てるため、資料の整理に努めること。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	下肢疾患の症例に対して		曾田		
2	下肢疾患の症例に対して		曾田		
3	上肢疾患の症例に対して		曾田		
4	上肢疾患の症例に対して		曾田		
5	その他の整形外科疾患の症例に対して		曾田		
6	頭部外傷		堀		
7	パーキンソン病の症例検討		堀		
8	運動学習		堀		
9	P u s h e r 症候群と半側空間無視		堀		
10	痙縮治療		堀		
11	リスク管理		長谷部		
12	リスク管理		長谷部		
13	生活習慣病の考え方		長谷部		
14	心疾患		長谷部		
15	呼吸器疾患		長谷部		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
定期試験90%(内訳は整形疾患分野(30%),神経疾患分野(30%),内部疾患分野(30%))及び授業態度・参加度(10%)とし評定する。					
使用教科書					
資料配布					
参考図書					
ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床能力スキルアップ(文光堂)					
備考					
講義内容によってはディスカッションを行う。積極的な参加を期待する。					

授業科目名		担当教員			
運動器系検査法		曾田 直樹・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 曾田直樹)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 人間の生活は基本的な運動機能をベースに、必要な動作を用いて営まれている。その機能自体が障害されることは動作・活動の制限を生じ、社会生活が危ぶまれ得る事につながる。本講義はそれら運動機能の働きを評価する。具体的には、関節可動域測定、形態測定(四肢長、周径)、感覚検査(体性感覚、特殊感覚、疼痛)などである。各々の検査法の意義・原理を理解し、検査技術を修得する。疾患における必要な検査項目をグループディスカッションにて列挙し実施する。</p> <p><学修の到達目標> 四肢の関節可動域の目的を理解し測定することができる。 四肢の形態測定の目的を理解し行うことができる。 感覚検査の目的を理解し行うことができる。 整形外科的検査の目的を理解し行うことができる。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 授業計画を確認し、教科書を一読しておくこと、講義内容の関節の運動学を確認しておくこと。 <必要時間> 各回 60分</p>			<p><内容> 講義で習った実技の意義・目的を再確認し、技術が向上するよう時間を見つけ練習すること。 <必要時間> 各回 60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	関節可動域：目的		曾田・藤橋		
2	関節可動域：肩関節屈曲・伸展・内転・外転		曾田・藤橋		
3	関節可動域：肩関節内旋・外旋・水平内転・水平外転		曾田・藤橋		
4	関節可動域：肘関節屈曲・伸展、手関節掌屈・背屈・橈屈・尺屈		曾田・藤橋		
5	関節可動域：股関節屈曲・伸展・外転・内転・内旋・外旋		曾田・植木		
6	関節可動域：膝関節屈曲・伸展		曾田・植木		
7	関節可動域：足関節背屈・底屈、内反・外反		曾田・植木		
8	関節可動域：体幹、別法		曾田・植木		
9	形態測定：目的、方法を理解し、実技を行う。		辻		
10	感覚検査：上行性伝導路の解剖・生理学・検査の目的を理解する。		藤橋		
11	感覚検査：表在感覚の目的と方法を理解し、実技を行う。		辻		
12	感覚検査：深部感覚および複合感覚の目的と方法を理解し、実技を行う。		辻		
13	整形外科検査：体幹・上肢疾患検査		曾田・植木		
14	整形外科検査：下肢疾患検査		曾田・植木		
15	疾患別検査法：疾患を想定し、必要な検査を列挙し実施する		曾田、辻、藤橋、植木		
	定期試験(筆記及び実技)				
評価基準・評価方法					
<p>評価基準：知識、技術、理解、学修態度、意欲を重視する。 評価方法：期末テスト(筆記・実技)70%、小テスト20%、参加度10%。</p>					
使用教科書					
<p>理学療法評価学 / 松澤 正 / 江口 勝彦.--第6版--金原出版, 2018, ISBN978-4-307-75054-7 理学療法評価学 / 市橋則明. 文光堂, 2016年, ISBN978-4-8306-4537-2</p>					
参考図書					
備考					
オフィスアワー	曾田	月曜日	12:15~13:15		
	藤橋	月曜日	16:30~17:30		
	辻	月曜日	16:30~17:30		
	植木	火曜日	16:30~17:30		

授業科目名		担当教員			
神経系検査法		河合 克尚・辻 圭一・石田 裕保 (代表教員 河合 克尚)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バ`ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 人間の生活は、基本的な運動機能をベースに、必要な動作を用いて営まれている。その動作は、神経系の働きによって調整・制御されている。本科目では、それら神経系の働きを評価する方法を学ぶ。具体的には、徒手筋力検査、筋緊張、反射、脳神経、高次脳機能に関する検査法を学ぶ。そして、学生同士(健康者)での検査体験を通して検査技術の理解を深める。</p> <p><学修の到達目標> 徒手筋力検査法の意義・原理を理解し、検査技術を身に付ける。 脳神経検査および高次脳機能検査の意義・原理を理解し、検査技術を身に付ける。 筋緊張と反射検査の意義を理解し、検査技術を身に付ける。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 徒手筋力検査法では筋の走行と作用の理解が必要です。筋緊張・反射・脳神経検査では神経系の解剖・生理学の理解が必要です。講義前に授業計画に記載されている教科書の章またはページを読むこと。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 後学期に開講される理学療法評価学演習や評価実習前セミナーを通して、知識・技術の向上に努める。また、臨床実習(評価)において実際の対象者に実施することにより、知識・技術の習熟を目指すこと。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	徒手筋力検査法の意義・原理、徒手筋力検査の測定方法：肘関節屈曲・伸展		河合		
2	徒手筋力検査の測定方法：肩関節屈曲・外転・伸展		河合		
3	徒手筋力検査の測定方法：肩関節外旋・内旋・水平内転・水平外転		河合		
4	徒手筋力検査の測定方法：前腕回内・回外、手関節背屈・掌屈、手指		河合		
5	徒手筋力検査の測定方法：膝関節屈曲・伸展、股関節屈曲・伸展		河合		
6	徒手筋力検査の測定方法：股関節外転・内転・外旋・内旋		河合		
7	徒手筋力検査の測定方法：足関節背屈・底屈、足部内がえし・外がえし		河合		
8	徒手筋力検査の測定方法：体幹屈曲・伸展・回旋、骨盤挙上		河合		
9	徒手筋力検査の測定方法：頭頸部、肩甲骨		河合		
10	脳神経の診かた：脳神経検査法の方法を理解し、実技を行う p.105-126		辻		
11	高次脳機能の診かた：失認と失行について、検査方法を理解し、実技を行う p.255-262		辻		
12	高次脳機能の診かた：認知症、意識障害について検査方法を理解し、実技を行う p.277-281		辻		
13	筋緊張の診かた：協調性検査、筋ト ヌス検査 メカニズムを理解し実技を行う		石田		
14	反射の診かた：反射検査、姿勢反射検査 メカニズムを理解し実技を行う p.113-125		石田		
15	反射の診かた：反射検査、姿勢反射検査 メカニズムを理解し実技を行う p.145-160		石田		
	定期試験(実技)				
評価基準・評価方法					
評価方法は、小テスト(40%)、定期試験(実技)(60%)とする。					
使用教科書					
新・徒手筋力検査法 / Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著.--原著第9版(DVD付)--協同医書出版社, 2014年, ISBN978-4-7639-0038-8 ベッドサイドの神経の診かた / 田崎義昭著.--第18版--南山堂, 2016年, ISBN978-4-525-24798-0 理学療法評価学 / 松澤 正 / 江口 勝彦.--第6版--金原出版, 2018, ISBN978-4-307-75054-7					
参考図書					
適宜紹介する					
備考					
講義と実技を行います。実技の際は、動きやすい服装で臨んで下さい。質問等がある場合は、講義終了後やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。					

授業科目名		担当教員			
動作・画像解析学		堀 信宏・石田 裕保 (代表教員 堀 信宏)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バ`ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 本講義では、運動器疾患や中枢疾患の代表的なレントゲン、CT、MRI画像の見方や解説を教授する。また、姿勢分析、バランス検査、動作分析、歩行分析などグループワークを実施する。姿勢、動作、歩行の分析とは、理学療法評価の一手段として位置づけられている。その為、運動学的視点で人における動きを観察し分析できるようになることが目的である。</p> <p><学修の到達目標> 筋収縮と身体活動の力学的結びつきを理解する。バランス能力評価方法を理解・実施できるようになること。(堀担当分) X-pやMRI画像を診ることが出来るようになること。基本動作の成り立ちを理解することが出来るようになること。(石田担当分)</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 人の動きを文章化します。運動学総論、臨床運動学で学んだ知識を正しく理解し使用できるようになっておきましょう。 <必要時間> 毎回30分</p>			<p><内容> レポート作成時、多くの文献を読みましよう。 <必要時間> 毎回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	運動学的動作解析 固定筋と動筋 背臥位から長座位における筋活動		堀		
2	運動学的動作解析 筋活動とモーメント スクワットにおける筋活動		堀		
3	バランス機能の見方 TUG/FRT/姿勢反射		堀		
4	バランス機能の見方 BBS		堀		
5	CT/MRIの見方 整形疾患のレントゲンの見方		石田		
6	観察による動作分析の仕方 基礎		石田		
7	観察による動作分析の仕方 レポートの書き方とデモンストレーション		石田		
8	「寝返り」動作分析・レポート作成		石田		
9	「寝返り」触診・レポート作成		石田		
10	「起き上がり」動作分析・レポート作成		石田		
11	「起き上がり」触診・レポート作成		石田		
12	「起き上がり」動作分析・レポート作成		石田		
13	「立ち上がり」動作分析・レポート作成		石田		
14	「立ち上がり」触診・レポート作成		石田		
15	「立ち上がり」動作分析・レポート作成		石田		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
課題レポート(50%)、筆記試験(50%)を総合的に判断する。					
使用教科書					
動作分析臨床活用講座バイオメカニズムに基づく臨床推論の実践 / 石井慎一郎.メジカルビュー, 2013年, ISBN978-4-7583-1474-9					
参考図書					
臨床評価指標入門 適応と解釈のポイント(協同医書) 観察による歩行分析(医学書院) 筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版株式会社)					
備考					
動作分析は、臨床実習(卒後は臨床)で日常的に必要なとされる評価能力です。そのことを意識して取り組んでください。専門職としての「眼」を養うこと。					

授業科目名		担当教員			
理学療法評価学演習		河合 克尚・曾田 直樹・田島 嘉人・大場 かおり・石田 裕保 (代表教員 河合 克尚)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	2単位(60時間)	演習
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 理学療法評価学演習では、前学期で習得した各評価(検査)項目を中心に、症例に即した評価(検査)の実技練習を行う。その成果を客観的臨床能力試験(OSCE)を通して確認し、理学療法評価(検査)技術の定着と向上に努める。また、グループワークやディスカッションを通して、評価(検査)技術だけでなく、コミュニケーションの取り方についても学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 運動器疾患に即した評価(検査)を理解し、基本的な評価技術を身に付ける。 神経系疾患に即した評価(検査)を理解し、基本的な評価技術を身に付ける。 他者とのコミュニケーション能力の向上を図る。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 2年次前学期で学んだ各評価(検査)の意義と実技について、復習しておくこと。また、1年次後学期のコミュニケーション学で学んだコミュニケーションの基礎についても、復習しておくこと。 <必要時間> 各回60分</p>			<p><内容> 2年次後学期の臨床実習(評価)では、患者様に理学療法検査を実施する。臨床対応能力を高め、臨床実習(総合実習)への礎とすること。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	理学療法評価について(総論)				
2	理学療法評価の演習(運動器系検査)				
3	理学療法評価の演習(運動器系検査)				
4	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
5	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
6	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
7	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
8	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
9	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
10	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
11	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
12	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
13	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(運動器系検査)				
14	OSCE(運動器系検査)				
15	OSCE(運動器系検査)				
16	理学療法評価の演習(神経系検査)				
17	理学療法評価の演習(神経系検査)				
18	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
19	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
20	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
21	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
22	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
23	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
24	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
25	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
26	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
27	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
28	コミュニケーション技法、理学療法評価の演習(神経系検査)				
29	OSCE(神経系検査)				
30	OSCE(神経系検査)				

評価基準・評価方法

評価方法は、グループ活動への参加度（20%）、レポート（20%）、OSCE（60%）とする。

使用教科書

理学療法評価学 / 松澤 正 / 江口 勝彦.--第6版--金原出版, 2018年, ISBN978-4-307-75054-7
ベッドサイドの神経の診かた / 田崎義昭著.--第18版--南山堂, 2016年, ISBN978-4-525-24798-0
標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 / 鶴見隆正ほか編集.--第6版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03256-8

参考図書

適宜紹介する

備考

実技演習が中心の科目です。臨床実習に臨む際と同様、服装や身だしなみを整えるようにして下さい。
演習課題に対するフィードバックは、演習中およびOSCE後に担当教員から行います。
質問等がある場合は、演習中や授業終了後、オフィスアワーを積極的に活用して下さい。

授業科目名		担当教員		
高齢者機能障害学		堀 信宏		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 高齢者機能障害学では、高齢者に発生しやすい認知症、老年期症候群などの疾患、老化のメカニズムと、加齢に伴う様々な機能・能力障害について学習する。更に、転倒予防や高齢者の運動療法、リスク管理など将来の臨床に結び付く内容を教授する。その他にも家族に対する指導、高齢者に対する接し方などディスカッション・発表を通じて検討・修得する。</p> <p><学修の到達目標> 高齢者の身体的特徴、および複数の疾患を理解する。 理学療法士として、高齢者の特性を考慮し、様々な疾患について在宅生活についてディスカッションを行う。思考過程の修得を目指す。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 該当する教科書の範囲を事前に読んでおくこと。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> ワークシートを配付する。教科書と併用して重要な点の整理しておくこと。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	ライフステージと高齢者像，高齢社会の課題と展望			
2	加齢に伴う心身機能の変化：高齢者の身体的特徴			
3	加齢に伴う心身機能の変化：高齢者の認知・精神的特徴，認知症			
4	加齢に伴う心身機能の変化：高齢者の認知・精神的特徴 対応について			
5	老年症候群：フレイル，低栄養，寝たきり（廃用症候群）			
6	老年症候群：転倒			
7	高齢者の生活機能評価			
8	高齢者の心理：人生曲線			
9	高齢者に対する接し方			
10	高齢者の家族関係			
11	高齢者の理学療法を実施する上での留意事項：介護予防プラン作成 1			
12	高齢者の理学療法を実施する上での留意事項：介護予防プラン作成 2			
13	症例検討課題			
14	死生観			
15	地域高齢者と理学療法士：地域理学療法へ			
	定期試験（筆記）			
評価基準・評価方法				
筆記試験95%，提出物5%				
使用教科書				
シンプル理学療法シリーズ 高齢者理学療法学テキスト / 山田和政編集.南江堂，2017，ISBN978-4-524-25783-6				
参考図書				
終末期リハビリテーション（荘道社） 運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法（文光堂） 高齢者リハビリテーション実践マニュアル（メディカルビュー）				
備考				
積極的な参加を期待する。 知識の修得だけでなく、将来、専門職種としてどのような視点、心情で高齢者に向かうべきなのか、ディスカッションの中で感じてもらいたい。				

授業科目名		担当教員			
脳・神経機能障害学（総論）		堀 信宏・大場 かおり（代表教員 堀 信宏）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バ ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 脳・神経機能障害学（総論）では、1年次で行った神経系、および脳血管系の解剖を復習するとともに、主にリハビリテーションの対象疾患として代表的な脳血管障害における臨床所見の解説、およびその検査方法について説明します。この科目で得た知識は理学療法士にとって必須であり、平行して開講される「神経系検査法」の基礎になりますので十分に理解しておきましょう。</p> <p><学修の到達目標> 中枢神経(脳・脊髄)の解剖・生理学の知識定着させること。、中枢神経疾患の病理、臨床症状の関係について理解する。 中枢神経疾患の病理、臨床症状の関係について理解すること。 臨床でもっとも遭遇する可能性の高い、脳血管障害の評価法と治療のアウトラインを修得すること。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> ・1年次の「解剖学」の教科書と配布プリントを復習しましょう。 ・教科書の該当項目を一読しておきましょう。 <必要時間>15分</p>			<p><内容> ・中枢神経の仕組みについて、教科書や配布プリントを参考に図示できるようにしてください。 ・授業中に教員が強調したことについて復習しましょう。 <必要時間>30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	中枢神経系理学療法の基礎知識		大場		
2	脳の構造と機能		大場		
3	脊髄の構造と機能		大場		
4	運動と感覚の中枢機能と構造		大場		
5	中枢神経障害の運動の特徴(1)		大場		
6	中枢神経障害の運動の特徴(2)		大場		
7	脳血管障害における医学管理		堀		
8	脳の損傷と病態・回復(1)		堀		
9	脳の損傷と病態・回復(2)		堀		
10	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ		大場		
11	脳血管障害後片麻痺患者の評価の考え方		堀		
12	脳血管障害後片麻痺患者の運動機能評価		堀		
13	脳血管障害後片麻痺患者のその他の評価		堀		
14	脳血管障害における理学療法の実際(1)		堀		
15	脳血管障害における理学療法の実際(2)		堀		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
期末試験100%(堀と大場が50%ずつ出題します。それぞれ実施する小テストは知識の整理に役立ちます。)					
使用教科書					
理学療法テキスト 神経障害理学療法学 / 石川朗編集, 中山書店, 2011, ISBN978-4-521-73231-2 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 / 石川朗編集, 中山書店, 2012年, ISBN 978-4-521-73232-9 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4					
参考図書					
ベットサイドの神経のみかた(南山堂) 絵で見る脳と神経(医学書院)					
備考					
脳血管障害は将来臨床に出てから高頻度で出会う障害です。障害像を掴むように努めてください。解らない内容を後回しにせず、その都度整理につとめることが大切です。3年の臨床実習, 国家試験では、脳の機能解剖と合わせて理解していることが大切になります。コツコツ理解するように努めてください。質問は直接でもメールでも受け付けます。。理解できるように一緒に勉強しましょう。					

授業科目名		担当教員			
脳・神経機能障害学（各論）		堀 信宏・大場 かおり（代表教員 堀 信宏）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 仏バ ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 脳・神経機能障害学（各論）では、脳血管障害における合併症について説明するほか、衣服着脱や移乗動作の演習をグループ単位で行います。また、脳血管障害以外の神経系疾患について病理、臨床所見、治療について学習します。この科目で得た知識は学年末の臨床実習に必要な知識ですので、十分に学習しましょう。</p> <p><学修の到達目標> 脳血管障害の評価法と治療のアウトラインを修得すること。 神経系疾患についての基礎知識を、解剖学や病理学との関連を踏まえて修得すること。 神経疾患について、臨床所見や治療法についての理解を深めること。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 脳・神経機能障害学（総論）を復習しましょう。 教科書の該当ページを一読しましょう。 <必要時間> 15分</p>			<p><内容> たくさんの神経疾患を学習しますが、病態と評価について混乱しないように整理しましょう。 「神経内科学」の授業で学習したこととの繋がりが見つけられるようにしましょう。 <必要時間> 30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	脳血管障害における合併症（1）		大場		
2	脳血管障害における合併症（2）		大場		
3	高次脳機能障害（1）		大場		
4	高次脳機能障害（2）		大場		
5	パーキンソン病の病態		堀		
6	パーキンソン病に対する理学療法		堀		
7	運動失調症の病態，理学療法		大場		
8	頭部外傷・脳腫瘍の病態		堀		
9	頭部外傷・脳腫瘍に対する理学療法		堀		
10	多発性硬化症（重症筋無力症含む）の病態，理学療法		堀		
11	筋萎縮性側索硬化症の病態，理学療法		堀		
12	脊髄損傷のアウトライン		堀		
13	ギランバレー症候群，シャルコ・マリー・トゥース病の病態		大場		
14	画像診断について		大場		
15	グループワーク：中枢神経疾患患者におけるADL		大場		
	定期試験（筆記）				
評価基準・評価方法					
期末試験100%（出席状況を加味する） 各担当が実施する小テストは重要な点のまとめとなります。					
使用教科書					
理学療法テキスト 神経障害理学療法学 / 石川朗編集, 中山書店, 2011年, ISBN978-4-521-73231-2 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 / 石川朗編集, 中山書店, 2012年, ISBN978-4-521-73232-9 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4					
参考図書					
ベットサイドの神経のみかた（南山堂） 絵で見る脳と神経（医学書院）					
備考					
中枢難病は国家試験の出題が多い疾患です。障害像を掴むように努めてください。 前学期「脳・神経機能障害学（総論）」と同様に、解らない内容を後回しにせず、コツコツ理解するように努めてください。					

授業科目名		担当教員		
骨・関節機能障害学(上肢)		田島 嘉人		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 骨・関節機能障害学(上肢)では、上肢の機能解剖学(運動学・解剖学)等基礎知識の確認を行うと共に、主要な整形外科、外科疾患である上肢の関節の骨折及び軟部組織損傷、変形性関節症などの病態理解を深める。また、各整形外科的検査法をはじめとする評価結果を踏まえ、結果をどのように解釈するのか、理学療法をどのような流れで展開させるのかなどを学ぶ。授業形式は主にディスカッション、レポート、グループワークにて行い、Outputすることで、知識の定着と応用する力を養う。レポートの提出などはICTを活用する。</p> <p><学修の到達目標> 臨床推論 評価項目抽出 検査 考察 問題点の抽出の流れを把握することができる 主要な上肢の整形外科疾患の病態を理解することができる 実習における報告連絡相談の方法について体験できるようにする</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 機能解剖学(運動学・解剖学)等の基礎知識を確認する。 <必要時間>各回60分</p>		<p><内容> 各回の課題(PBL・レポート)に基づいて、学習を進める。 <必要時間>各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	総論			
2	整形外科領域における評価No.1			
3	PBL(肩関節病態運動学)No.1			
4	PBL(肩関節病態運動学)No.2			
5	PBL(肩関節病態運動学)No.3			
6	PBL(肩関節病態運動学)No.4			
7	PBL(肩関節病態運動学)No.5			
8	PBL(肩関節病態運動学)No.6			
9	PBL(手関節病態運動学)No.1			
10	PBL(手関節病態運動学)No.2			
11	PBL(手関節病態運動学)No.3			
12	PBL(手関節病態運動学)No.4			
13	肘関節病態について			
14	整形外科領域における評価No.1			
15	整形外科領域における評価No.2			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
グループディスカッション参加度(40%)、レポート(期限提出)(30%)、期末試験(30%)				
使用教科書				
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹 / 整形外科リハビリ学会.--改訂第2版--メジカルビュー, 2014年, ISBN978-4-7583-1478-7				
参考図書				
備考				
骨関節機能障害の理解に必要な解剖学、運動学、疾患学などの知識の応用と実習に必要な臨床推論から問題点の抽出までの臨床における理学療法の考え方を学びます。分からないこと、理解できないことがあれば、すぐに質問してください。				

授業科目名		担当教員		
骨・関節機能障害学（下肢・体幹）		曾田 直樹		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 骨・関節機能障害学（下肢・体幹）では、理学療法を実施する機会の多い下肢・体幹の運動学、歩行における役割を学ぶ。また各関節に生じやすい疾病（大腿骨頸部骨折、T H Aなど）を中心に、運動学的見地を交えて障害を捉える方法について学ぶ。臨床運動学や骨関節治療技術と関連する。講義ではディスカッションなどを通して知識や動作の理解を深める。</p> <p><学修の到達目標> 歩行における下肢・体幹の役割を理解できる。 下肢・体幹の疾患についての病態を理解し、その理学療法を理論的に説明することができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 1年次に学習した臨床運動学をはじめ運動学総論、下肢の解剖について確認する。 <必要時間> 各回60分</p>		<p><内容> 学習した内容の理解さらには応用できるように復習する。 <必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	足関節の病態運動学			
2	足関節の歩行時の役割			
3	足関節疾患の病態を考える			
4	足関節疾患の運動療法（理論と実際）			
5	膝関節の病態運動学			
6	膝関節の歩行時の役割			
7	膝関節疾患の病態を考える			
8	膝関節疾患の運動療法（理論と実際）			
9	股関節の病態運動学			
10	股関節の歩行時の役割			
11	股関節疾患の病態を考える			
12	股関節疾患の運動療法（理論と実際）			
13	腰椎の運動学			
14	腰椎疾患の病態を考える			
15	腰椎疾患の運動療法（理論と実際）			
	定期試験 筆記			
評価基準・評価方法				
<p>評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視 評価方法：定期試験（90%）、態度・意欲（10% 小テスト、授業参加度など）にて総合的に判断する。</p>				
使用教科書				
<p>関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢 / 整形外科リハビリ学会.--改訂第2版--メジカルビュー、2014年、ISBN978-4-7583-1479-4</p>				
参考図書				
<p>・筋骨格系のキネシオロジー 原著：Donald A 監訳：島田智明ら 医歯薬出版株式会社</p>				
備考				
<p>オフィスアワー 月曜日 12:25~13:15</p>				

授業科目名		担当教員			
内部機能障害学（循環器系）		長谷部 武久・河合 克尚（代表教員 長谷部 武久）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バ`ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 同時期に開講される「内科学」の知識を基に、主に心筋梗塞や狭心症などの冠動脈疾患が引き起こす障害像の把握、必要な評価項目の選択、評価を実施する際の留意点などについて学ぶ。具体的には情報収集をはじめ、心電図検査、運動負荷試験などの意義・原理を理解する。理学療法がどのような流れで展開されるのか、治療までの全体像を捉えられるようにする。12～14回目は循環器疾患症例に関するPBL方式によるグループディスカッション、15回目にプレゼンテーションを実施する。</p> <p><学修の到達目標> 循環器系の解剖と生理について述べるができる 虚血性心疾患に対する評価および理学療法について述べるができる 心不全に対する評価および理学療法について述べるができる</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 「解剖学」「生理学」で学んだ循環器系の解剖や生理について復習するとともに、「授業計画」に基づき、使用教科書の該当ページを読んでおくこと。 <必要時間>各回60分</p>			<p><内容> 病態については必ず復習を行うこと。グループで話し合われた内容に関して、必ず自己学習をした上で次回のディスカッションに参加すること。 <必要時間>各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	循環器系の解剖と生理 p.1-12		河合		
2	運動耐容能とその評価 p.35-44		河合		
3	心電図の診方 p.13-22		河合		
4	心電図の診方 p.13-22		河合		
5	虚血性心疾患の病態、検査と治療 p.45-54		河合		
6	虚血性心疾患の病態、検査と治療 p.45-54		河合		
7	心不全の病態、検査と治療 p.80-81		長谷部		
8	心不全の病態、検査と治療 p.82-85		長谷部		
9	心不全の病態、検査と治療 p.85-92		長谷部		
10	循環器疾患の運動療法 p.122-123,127,134-135		長谷部		
11	循環器疾患の運動療法 p.144-150		長谷部		
12	グループディスカッション		長谷部・河合		
13	グループディスカッション		長谷部・河合		
14	グループディスカッション		長谷部・河合		
15	プレゼンテーション		長谷部・河合		
	定期試験（筆記）				
評価基準・評価方法					
グループ活動への参加度（10%）、定期試験（90%）とする					
使用教科書					
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法学「循環・代謝」 / 責任編集：木村雅彦.--第2版--中山書店、2017年、ISBN978-4-521-74492-6					
参考図書					
適宜紹介する					
備考					
授業終了後に質問を受け付ける。メールによる質問も可。 t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員			
内部機能障害学（代謝・呼吸器系）		河合 克尚・長谷部 武久（代表教員 河合 克尚）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 仏バース
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 2年次前期に学んだ「内科学」の知識を基に、糖尿病などの代謝系疾患、肺気腫などの閉塞性肺疾患を引き起こす障害像の把握、必要な評価項目の選択、評価を実施する際の留意点などについて学ぶ。また、理学療法がどのような流れで展開されるのか、治療までの全体像を捉えられるようにする。11～13回目は代謝・呼吸器疾患症例に関するPBL方式によるグループディスカッション、15回目にプレゼンテーションを実施する。</p> <p><学修の到達目標> 糖尿病などの代謝系疾患に対する評価および理学療法について理解する。 閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患に対する評価および理学療法について理解する。 呼吸器疾患に対するフィジカルアセスメントの技術を身に付ける。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 代謝・呼吸器系の解剖および生理学、内科学（代謝系疾患、呼吸器疾患の病態）についての復習とともに、「授業計画」に基づき、使用教科書の該当ページを読んでおくこと。</p> <p><必要時間> 各回60分</p>			<p><内容> 授業内容を復習し、臨床実習（評価）や3年次の内部系理学療法治療技術に繋げる</p> <p><必要時間> 各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	代謝系疾患（メタボリックシンドローム）の病態（循環・代謝p.92-95, 104）		長谷部		
2	糖尿病の病態（循環・代謝p.95-96）		長谷部		
3	糖尿病の治療（循環・代謝p.96-98）		長谷部		
4	代謝系疾患の評価（循環・代謝p.102-108）		長谷部		
5	代謝系疾患の理学療法（循環・代謝p.154-162）		長谷部		
6	呼吸器系の解剖学・運動学（呼吸レクチャー2）		河合		
7	呼吸器系の生理学（呼吸レクチャー3）		河合		
8	呼吸不全の病態と呼吸器疾患（呼吸レクチャー4）		河合		
9	呼吸理学療法のための評価（呼吸レクチャー5・6）		河合		
10	呼吸理学療法（呼吸レクチャー7・10）		河合		
11	グループディスカッション		長谷部・河合		
12	グループディスカッション		長谷部・河合		
13	グループディスカッション		長谷部・河合		
14	呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント		長谷部・河合		
15	プレゼンテーション		長谷部・河合		
	定期試験（筆記）				
評価基準・評価方法					
グループ活動への参加度10%、定期試験90%					
使用教科書					
1 5 レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法「循環・代謝」 / 責任編集：木村雅彦.--第2版--中山書店, 2017年, ISBN978-4-521-74492-6 1 5 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法 「呼吸」 / 責任編集：玉木 彰.--第2版--中山書店, 2017年, ISBN978-4-521-74493-3					
参考図書					
適宜紹介する					
備考					
授業終了後に質問を受け付ける。メールによる質問も可。 t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp k.kawai@heisei-iryuu.ac.jp					

授業科目名		担当教員		
発達機能障害学		松田 充弘		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 成人の障害は、一度獲得した機能の回復となるが、小児での障害に対しては、障害に応じて発達を築き上げていく必要がある。発達を促していくために必要な、正常発達について、主に運動に注目して学習する。小児特有の疾患である脳性麻痺・二分脊椎・筋ジストロフィー症について、障害の特徴・評価・治療について学習する。特に脳性麻痺については、タイプによる特徴・問題点・治療方法について詳しく学習する。</p> <p><学修の到達目標> 姿勢・運動の障害の分析が質的に行うことができる。 正常発達発達を理解し、肢体不自由児の発達の問題点や理学療法的なを理解ができる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 姿勢・運動の分析の為に、解剖学・運動学の知識が必要である為、事前に理解を深めておく。初回の授業で資料をばら渡しますので、事前に一通り読んでおいて下さい。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 1回の講義での内容が多い為、資料や板書の内容を読み直し理解を深める。用語などでわからないものについては、質問や調べるなどして理解しておく。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	発達障害学概論・正常発達概論(小児期で理学療法の対象になる疾患について)			
2	正常発達 新生児期~6ヶ月(出生してから、どのようにして頸が座るのか?どのようにして座れるようになるのか?)			
3	正常発達 7ヶ月~12ヶ月(どのようにして歩行を獲得するのか?)			
4	脳性麻痺概論(脳性麻痺の原因・特徴・問題点について)			
5	評価概論(脳性麻痺を中心に評価方法について)			
6	評価(姿勢筋緊張の評価、姿勢・動作分析について 座位バランス等の簡単な実技も行う)			
7	評価(日常生活動作の評価について)			
8	脳性麻痺類型別痙直型両麻痺(障害の特徴について)			
9	脳性麻痺類型別痙直型両麻痺(問題点、理学療法について)			
10	脳性麻痺類型別痙直型四肢麻痺(障害・問題点・理学療法について)			
11	脳性麻痺類型別片麻痺(障害の特徴について)			
12	脳性麻痺類型別片麻痺(問題点・理学療法について)			
13	脳性麻痺類型別アテトーゼ(障害の特徴について)			
14	脳性麻痺類型別アテトーゼ(問題点・理学療法について)			
15	二分脊椎・筋ジストロフィー症(障害・問題点・理学療法について)			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
筆記試験 100%				
使用教科書				
プリントを配布します。				
参考図書				
講義の際に紹介します。				
備考				
板書を多くしますので、ノートなどを準備して下さい。				

授業科目名		担当教員		
物理療法学（温熱療法）		大場 かおり		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 物理療法は物理的手段で生体の自然治癒力を高めるものである。理学療法の治療体系での位置づけを学び、熱エネルギーが生体に与える生理学的作用・治療効果・治療目的・適応と禁忌について学習する。さらに物理療法機器を実際に用いてグループで演習を行ない、治療効果、使用方法、使用上の注意、安全確保についてグループでディスカッションしてレポートを作成する。</p> <p><学修の到達目標> 温熱や寒冷が人体にもたらす生理学的、物理的影響を理解すること。 効果的かつ安全な物理療法技術について理解し習得すること。 使用機器の特性を理解し、対象者に適切に説明し安全に配慮してできること。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書を一読し、中学・高校で学習した「熱」について復習してください。 <必要時間> 各回15分</p>		<p><内容> 各治療方法の特徴と禁忌事項について、教科書と配布プリントを読み返し復習してください。 <必要時間> 各回15分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	物理療法について：物理療法の総説（定義、歴史、効果、リスク管理）			講義
2	熱の物理学：温熱療法を実施する上で理解が必要な物理学			講義
3	熱の生理学：温熱療法が生体に与える生理学的影響について			講義
4	温熱療法総論：温熱療法の種類、適応、禁忌			講義
5	ホットパック療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理			講義
6	パラフィン浴療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理			講義
7	超短波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理			講義
8	極超短波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理			講義
9	超音波療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理			講義
10	赤外線療法：物品の説明、使用方法、適応、禁忌、リスク管理			講義
11	温熱療法演習：グループワーク 各論で学習した機器、療法の体験			演習
12	温熱療法演習：グループワーク 各論で学習した機器、療法の体験			演習
13	寒冷療法：寒冷療法が生体に与える生理学的影響について、適応、禁忌			講義
14	寒冷療法演習：グループワーク 学習した機器、療法の体験			演習
15	寒冷療法演習：グループワーク 学習した機器、療法の体験			演習
	定期試験（筆記）			
評価基準・評価方法				
演習後のレポート(10%)、筆記試験(90%)の総合評価です。試験では、特に熱の生理学的・物理学的影響、物理療法の適応と禁忌について、知識が定着しているかをはかります。演習レポートはグループディスカッションの結果を個人でまとめます。提出期限厳守とし、期限を過ぎたものは評価対象になりません。				
使用教科書				
物理療法学 / 松澤正.--改訂第2版--金原出版, 2012年, ISBN978-4-307-75031-8				
参考図書				
備考				
質問は随時受け付けますのでしり込みせずに聞きましょう。メールでもOKです。 k.ooba@heisei-iryuu.ac.jp				

授業科目名		担当教員		
物理療法学（電気・牽引・水治療法）		辻 圭一		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 電気・牽引・水治療法の講義では、治療に利用する光線、電気、牽引、水の特性と、それぞれが持つエネルギーが生体に与える生理学的作用および治療効果や治療目的、適応と禁忌について学習する。また、自然科学におけるエネルギーの物理的作用についても言及する。実習では物理療法機器を実際に用い、使用方法、使用上の注意、安全確保を学習する。講義を通じて医療従事者の基本的態度を身につけ、効果的かつ安全な治療行為の習得を目指す。</p> <p><学修の到達目標> 各療法が生体に作用する原理が理解できる。 適応となる疾病や禁忌となる疾病を理解できる。 機器や手技を体験し、特性が理解できる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 次回の講義に該当する教科書の章を一通り読んでおくこと。</p> <p><必要時間> 各回20分</p>		<p><内容> 講義中に配布された資料に再度目を通し、特に呼称や名称、数値は覚えるように努力すること。</p> <p><必要時間> 各回20分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	光線療法概論（光・波長・周波数について）p91-95			
2	光線療法概論（電磁波・可視光線・放射線について）p96-97			
3	紫外線療法（原理・物理的特性・機器の説明・適応と禁忌）p98-106			
4	レーザー光線療法（原理・物理的特性・機器の説明・適応と禁忌）p114-127			
5	水治療法（水の力学的作用・機器の説明・適応と禁忌）p189-222			
6	牽引療法（牽引療法の原理・機器の説明・適応と禁忌）p223-248			
7	電気療法（電気の基礎、電圧・電流・抵抗について）p149-150			
8	電気療法（電気生理学）p150-156			
9	電気療法（電気療法の生体への影響）p157-164			
10	電気療法（電気療法の実際（低周波治療・TENS・SSP・干渉波・FES・TES）） p165-188			
11	筋電図バイオフィードバック療法（方法、適応、注意点について）			
12	疼痛の分類、マッサージ療法の理論 p249-264			
13	演習1．（水治療法・牽引療法）			
14	演習2．（光線療法・電気療法）			
15	演習3．（マッサージ療法）			
	定期試験（筆記）			
評価基準・評価方法				
中間テスト（30％）定期試験（70％）				
使用教科書				
物理療法学 / 松澤正.--改訂第2版--金原出版, 2012, ISBN978-4-307-75031-8				
参考図書				
備考				
本講義にノートは必要ありません。それに代わるレジュメを配布します。レジュメは中間テストと定期試験の勉強に必要となるので、講義中に十分な書き込みをし大切に保管する事。				

授業科目名		担当教員			
義肢装具学		石田 裕保・篠田 信之（代表教員 石田 裕保）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義 仏バ`ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 装具の種類・機能・使用目的などを学ぶ。動作に必要な運動機能と装具の物理的特性との関連を理解することにより、障害に応じた装具の選択、チェックアウトを確認できるようにする。(担当;石田 8コマ) 義肢装具学では、切断者の術前評価・術後管理から各義肢の目的・機能等を学ぶ。義肢のチェックアウト(異常歩行)を行えるようにする。(担当;篠田 7コマ)</p> <p><学修の到達目標> 病態を理解し、適切な義肢を処方出来るようにする。 障害を理解し、適切な装具を処方することができるようにする。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 義肢学・装具学ともに講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 <必要時間> 各回20分</p>			<p><内容> 学んだ知識を整理しノートに簡潔にまとめるようにして下さい。講義で習った義肢及び装具の名称や機能、使用目的をしっかりと覚えてください。 <必要時間> 各回20分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	義肢学総論;義肢全般の考え方・歴史		篠田		
2	切断術について;切断の原因及び切断部位、切断部位の選択、切断術		篠田		
3	断端ケアと訓練;各ドレッシング方法について(実技、幻肢、幻肢痛、浮腫)		篠田		
4	義肢各パーツ;ソケット・継手など義肢の基本事項、義足		篠田		
5	義肢;膝・足及びアライメント、継手の機能と種類		篠田		
6	義肢;大腿義足・下腿義足チェックアウト 大腿・下腿、膝継手の立脚相、遊脚相の役目、足部		篠田		
7	異常歩行;大腿義足、下腿義足(膝・サイム足根)、義手		篠田		
8	装具学総論;歴史・定義・目的・種類・分類・材料・制作過程(法制度)・EBM		石田		
9	下肢装具について;種類と機能、継手		石田		
10	短下肢装具;種類と機能		石田		
11	長下肢装具、杖;種類と機能		石田		
12	靴型装具;種類と各種補正		石田		
13	下肢装具のチェックアウト;支柱付き長下肢装具・短下肢装具、プラスチック製短下肢装具		石田		
14	各体幹装具、側彎症装具;頸椎、胸椎、腰椎、仙椎装具及び特殊装具、コブ角計測方法について		石田		
15	手の装具、特殊装具(ペルテス病、先天性股関節脱臼、先天性内反足、脳性麻痺など)		石田		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
期末試験(90%)、課題(10%)を総合的に判断する。					
使用教科書					
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 / 責任編集:佐竹将宏.中山書店,2011年,ISBN978-4-521-73225-1					
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学 / 責任編集:永富史子.中山書店,2011年,ISBN978-4-521-73226-8					
参考図書					
【義肢学】切断と義肢 初版 (医歯薬出版株) 【装具学】・義肢装具学 第4版 (医学書院)・装具治療マニュアル/装具学 第3版(医歯薬出版)					
備考					
講義は、座学形式で行なう。ビデオを使用したり、実技を行ったりする。 適宜プリント資料を配付する。 小テストは、事前に連絡し行う。小テストの解説を行う。質問がある場合は、オフィスアワーなどに来てください。					

授業科目名		担当教員			
日常生活活動学		石田 裕保・大場 かつり (代表教員 石田 裕保)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義・演習 仏バース
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 理学療法では日常生活活動の改善を主要な治療目標にしている。その基礎知識として概念、目標、範囲を整理し、障害構造(ICF)などを教授する。脳血管障害、脊髄損傷、慢性疼痛など日常生活に支障を生じる主要な疾患を想定し、日常生活障害を具体化し、グループワークなどを行い、治療目標を見つけ出すことができるよう教授する。また、様々なADL評価方法や動作分析の方法を教授する。臨床実習で直接的に患者様に関わる時に必要となる「動作介助」の実技を2人1組で行い、指導方法、介助技術(言葉の使い方、介助の程度、介助の方法)を教授する。又、生活範囲を広げていく為に必要な補装具や福祉用具の使用法についても教授する。主に車椅子、杖の使い方、段差・階段移動等を中心に指導を進める。</p> <p><学修の到達目標> ADLの概念について理解する。 動作介助の実技を習得する。 評価方法を理解する。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 講義前に授業計画内容と教科書を照らし合わせて範囲を一読して下さい。 <必要時間> 各回20分</p>			<p><内容> 学習ノートを作成し、日々学んだことを簡潔にまとめるようにして下さい。また、講義の空き時間などに実技の練習をして下さい。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	オリエンテーション 概論 日常生活活動学		石田	講義	
2	ADLとAPDL		石田	講義	
3	できるADL・しているADL、ICF、ICIDH		石田	講義	
4	更衣動作、浴槽への移乗、環境整備、座位保持装置		石田	講義	
5	脊髄損傷の評価方法 ASIA、Zancoli など		石田	講義	
6	ADL評価法(BI、カツなど)		石田	講義	
7	歩行器、車椅子、車椅子の取り扱いについて		石田・大場	演習	
8	トランスファー 車いす ベッド 1人介助		石田・大場	演習	
9	トランスファー 車いす ベッド 2人介助		石田・大場	演習	
10	動作介助、背臥位 腹臥位		石田・大場	演習	
11	床からの立ち上がり		石田・大場	演習	
12	杖・松葉杖歩行		石田・大場	演習	
13	トランスファー 整形疾患、中枢疾患		石田・大場	演習	
14	ADL評価法(FIM・SIAS)		大場	講義	
15	ADL評価法(FIM・SIAS)		大場	講義	
	定期試験(筆記・実技)				
評価基準・評価方法					
<p>期末試験(80%)。小テスト(20%)をもって総合的に判断する。 期末試験は実技と筆記を行う。</p>					
使用教科書					
<p>標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 / 鶴見隆正ほか編集。--第5版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03256-8 新 イラストによる安全な動作介助のてびき / 飛松好子編著。--第3版--医歯薬出版社, 2016年, ISBN978-4-263-21731-3 脳卒中の機能評価SIASとFIM〔基礎編〕 / 千野直一ほか。金原出版, 2012年, ISBN978-4-307-75033-2</p>					
参考図書					
講義の際、適宜紹介します。					
備考					
<p>主にADL評価方法(座学)と動作介助(演習)を行う。演習の際は講義内で指定した場所・服装で行って下さい。 座学と演習の講義を行うため、講義によって使用教室が異なります。その場合、事前に連絡します。 適宜プリント資料を配付する。質問がある場合は、オフィスアワーなどに確認して下さい。</p>					

授業科目名		担当教員			
理学療法総合セミナー		石田 裕保・長谷部 武久・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 石田 裕保)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習 仏二ハス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 解剖学(骨・筋肉系)、運動学総論、臨床運動学で学んだ知識をもとに、理学療法評価のひとつである歩行分析を学ぶ。その際、ビデオ資料などを用いる。この科目で学んだ知識は2年次の後学期に開講される「理学療法総合セミナー」、「評価実習前セミナー」、「臨床実習(評価)」に発展する。演習では、5名程度のグループをつくり、ディスカッションをしながら授業を進めていく。また、各グループを教員が担当し、適宜助言等を行う。</p> <p><学修の到達目標> 動作分析の意義・方法について理解する 正常歩行の成り立ち・メカニズムについて理解する 実習で必要な異常歩行の線画作成や文章化を出来るようにする</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 1年次科目「解剖学」、「運動学総論」、「臨床運動学」の復習を行った上で授業に臨むこと。 <必要時間> 毎回30分</p>			<p><内容> 講義内容やレポート指導の内容は必ず復習し理解すること。 <必要時間> 毎回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	動作分析とは		石田	講義	
2	評価意義 観察から評価へどのように関連付けるのか?		石田	講義	
3	正常歩行の運動学的事項の確認		石田	講義	
4	正常歩行の線画作成(練習)		石田	演習	
5	正常歩行の線画作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
6	正常歩行の線画作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
7	正常歩行の観察文章化		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
8	正常歩行の観察文章化		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
9	正常歩行の観察文章化(まとめ)		石田	演習	
10	異常歩行の線画作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
11	異常歩行の線画作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
12	異常歩行の線画作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
13	異常歩行の観察文章化		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
14	異常歩行の観察文章化		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
15	異常歩行の観察文章化(まとめ)		石田	演習	
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
期末試験(80%)、レポート(20%)をもって総合的に判断する。					
使用教科書					
基礎運動学 / 中村隆一ほか.--第6版補訂--医歯薬出版社, 2003年, ISBN978-4-263-21153-3 臨床運動学 / 中村隆一ほか.--第3版--医歯薬出版社, 2002年, ISBN978-4-263-21134-2					
参考図書					
観察による歩行分析 訳 月城慶一ほか(医学書院)					
備考					
1年生に学んだ知識の復習、学び直しのいい機会です。分からない事がある場合は、すぐに解決するようにして下さい。随時、質問を受け付けます。					

授業科目名		担当教員			
理学療法総合セミナー		石田 裕保・長谷部 武久・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 石田 裕保)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と 授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習 仏バス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 「理学療法総合セミナー」で学んだ正常歩行や異常歩行の線画・観察文章をもとに、実際の患者の歩行映像をビデオで流し、理学療法の臨床思考(動作から考えられる問題点の抽出、考察及び統合と解釈)を身につけることを目的とする。この科目で学んだ知識は、2年次の後学期の「評価実習前セミナー」、「臨床実習(評価)」と関連する。演習では、5名程度のグループをつくり、ディスカッションをしながら授業を進めていく。また、各グループを教員が担当し、適宜助言等を行う。</p> <p><学修の到達目標> 実習に必要な態度を学ぶ。 実習のレポート作成に必要な知識について学び、異常歩行の問題点を抽出できるようにする。 パソコン操作が習得できるようにする。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 理学療法総合セミナーでのレポート内容などを再度確認し、授業に臨むこと。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> レポート指導された内容については必ず確認し、問題解決すること。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	オリエンテーション 臨床での歩行分析について TPO		石田	講義	
2	記録と報告について POSシステム SOAP		石田	講義	
3	片麻痺患者の歩行観察及び分析		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
4	片麻痺患者の歩行観察及び分析		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
5	片麻痺患者の歩行観察及び分析		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
6	レポート書式説明および作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
7	レポート書式作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
8	レポート書式作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
9	レポート書式作成		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
10	問題点抽出		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
11	考察および統合と解釈		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
12	考察および統合と解釈		石田	講義	
13	レポートの書き方		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
14	レポートの書き方		長谷部、辻、石田、藤橋、植木	演習	
15	レジュメの書き方		石田	講義	
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
レポート(50%)、期末試験(50%)を総合して判断する。 レポートは、基本講義の時間内で作成します。					
使用教科書					
標準理学療法学専門分野 理学療法臨床実習とケーススタディ / 鶴見隆正ほか編集.--第2版--医学書院, 2011年, ISBN978-4-260-01207-2					
参考図書					
ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ(文光堂)					
備考					
この講義ではパソコンを使用しますので、各自、事前に用意してください。 分からないことは、事前に調べ、理解できない時にはいつでも質問に来て下さい。					

授業科目名		担当教員			
脳・神経系理学療法治療技術		堀 信宏・藤橋 雄一郎 (代表教員 堀 信宏)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バ ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 脳・神経系理学療法治療技術では、主に脳血管障害、脊髄損傷に対する具体的な治療手技を学ぶ。動作介助をはじめ、神経筋促進法、関節可動域訓練などについて学ぶ。中でも脳血管障害者は理学療法の対象疾患として臨床上非常に高い頻度で遭遇する。その為、体系化された様々な治療手技について学ぶだけでなく、脳の多様な機能を反映した様々な臨床症状、リスクを学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 脳血管の解剖学的理解と、損傷による病理的变化を修得する。 評価(アセスメント)/投薬/離床基準/可動域訓練/動作介助など、実践的な内容を修得する。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 脳・神経機能障害学 の講義内容を確認する。また、臨床実習(評価)での脳・神経系疾患の病態等、復習する。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 臨床実習(総合前期)と(総合後期)につなげられるように整理する。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	脳解剖生理と脳血管障害の病態 1		堀		
2	脳解剖生理と脳血管障害の病態 2		堀		
3	脳画像の診方		堀		
4	評価(意識障害・眼球運動)		堀		
5	評価(運動・バランス・感覚・筋緊張)		堀		
6	離床の流れとポイント		堀		
7	関節可動域訓練		堀		
8	関節可動域訓練		堀		
9	姿勢保持・動作介助・ADL指導		堀		
10	その他の治療(CI, ミラー, バイオフィードバック)		堀		
11	その他の治療(PNF)		堀		
12	脳卒中ガイドライン		藤橋		
13	脳血管障害者の住環境整備		藤橋		
14	脳血管障害の装具療法		藤橋		
15	脊髄損傷		藤橋		
	定期試験 筆記				
評価基準・評価方法					
筆記試験(100%)					
使用教科書					
脳卒中急性期における看護リハビリテーション完全ガイド / 飯田祥ら著. 慧文社, 2015年, ISBN978-4-86330-167-2 病気がみえる7 脳・神経 / 医療情報科学研究所.--第2版--メディックメディア, 2017年, ISBN978-4-89632-686-4					
参考図書					
脳卒中理学療法の理論と技術(メディカルビュー) 理学療法テキスト神経障害理学療法学, 石川朗編集, 中山書店, 2011 理学療法テキスト神経障害理学療法学, 石川朗編集, 中山書店, 2012					
備考					
資料を基に、実際に身体を動かして実践も行います。また、ディスカッションも交えながら進めますので、積極的な参加を期待します。					

授業科目名		担当教員			
骨・関節系理学療法治療技術		曾田 直樹・田島 嘉人 (代表教員 曾田 直樹)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義 仏バ`ス
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 骨・関節系理学療法治療技術では、臨床運動学で学んだ四肢・脊椎の基礎知識を基に臨床上遭遇しやすい骨・関節障害、スポーツ障害に対する病態、理学療法の考え方および治療手技を体系的に学ぶ。具体的には解剖学、生理学の観点からの”痛み”に関する講義、臨床的体表解剖、ストレッチなどの基本的テクニックについてはデモンストレーションと実技体験を実施する。また講義では、グループワークを活用し学びを深めていく。</p> <p><学修の到達目標> 変形性股関節についてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 脊椎疾患についてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 関節リウマチについてその病態、理学療法の考え方を説明することができる。 臨床での評価、治療における体表解剖、ストレッチ、徒手療法の活用方法を説明することができる における基本的な技術を対象者に実施することができる</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 2年次に学習した骨関節機能障害学はじめとする骨・関節機能に関する科目の復習をする。 <必要時間>各回60分</p>			<p><内容> 学修した内容の理解およびその応用ができるように学習する。 <必要時間>各回60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	変形性股関節症の病態について		曾田		
2	変形性股関節症の運動療法について		曾田		
3	脊椎疾患の病態について		曾田		
4	脊椎疾患の運動療法について		曾田		
5	関節リウマチの病態について		曾田		
6	関節リウマチの運動療法について		曾田		
7	変形性疾患の運動療法		曾田		
8	整形外科領域の理学療法		田島		
9	臨床的体表解剖		田島		
10	臨床的体表解剖		田島		
11	徒手療法の基礎		田島		
12	徒手療法の基礎		田島		
13	ストレッチ		田島		
14	ストレッチ		田島		
15	筋膜リリースの基礎		田島		
	定期試験(筆記)				
評価基準・評価方法					
<p>評価基準：知識・理解、学修態度・意欲を重視 評価方法：定期試験(90%)、態度・意欲(10%) 小テスト、授業参加度など)にて総合的に判断する。</p>					
使用教科書					
<p>運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢) / 林則雄.--改訂第2版--メジカルビュー社, 2011年, ISBN978-4-7583-1136-6 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹) / 林則雄.--改訂第2版--メジカルビュー社, 2012年, ISBN978-4-7583-1137-3 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 / 坂井建雄ほか監訳.--第3版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02534-8</p>					
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科運動療法ナビゲーション 下肢・体幹(メジカルビュー) ・標準理学療法学 骨関節理学療法学(医学書院) 					
備考					
<p>オフィスアワー 曾田 月曜日12:15~13:15 田島 水曜日16:30~17:30</p>					

授業科目名		担当教員		
内部系理学療法治療技術		河合 克尚		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 前学期	1単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 循環器系では運動耐容能向上や末梢循環障害に対する運動療法を、呼吸器系では呼吸介助手技や呼吸筋トレーニングを、代謝系については糖尿病やメタボリックシンドロームに対する予防・改善プログラムなど、疾患・症状に応じた運動療法を学ぶ。また、これら内部系理学療法における科学的根拠および最新の知見について、文献をもとにグループワークを通して学ぶ。その他、救命処置や吸引法についても演習を通して学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 呼吸器疾患の具体的な運動療法や治療手技について理解する。 循環器疾患の具体的な運動療法について理解する。 代謝系疾患の具体的な運動療法について理解する。 内部系理学療法における科学的根拠および最新の知見を理解する。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 教科書「呼吸」のP.47～56(Lecture5)、P.153～162(Lecture15)、「循環・代謝」のP.35～44(Lecture4)、P.143～164(Lecture14・15) <必要時間>各回30分</p>		<p><内容> 小テストを実施しますので、授業内容をしっかり復習しておきましょう。また、臨床実習での経験を通して、内部系理学療法の知識・技術を整理しましょう。 <必要時間>各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	呼吸理学療法のための評価			
2	呼吸理学療法のための評価			
3	呼吸器疾患の理学療法			
4	呼吸器疾患の理学療法			
5	呼吸器疾患の理学療法			
6	運動耐容能とその評価			
7	運動耐容能とその評価			
8	循環器疾患の理学療法			
9	循環器疾患の理学療法			
10	代謝系疾患の理学療法			
11	代謝系疾患の理学療法			
12	気道内分泌物吸引法			
13	救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用)			
14	文献抄読			
15	文献抄読			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
評価方法は、グループ活動への参加度(10%)、小テスト(30%)、定期試験(60%)とする。				
使用教科書				
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法学「循環・代謝」 / 責任編集:木村雅彦.--第2版--中山書店,2017年,ISBN978-4-521-74492-6 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 「呼吸」 / 責任編集:玉木 彰.--第2版--中山書店,2017年,ISBN978-4-521-74493-3				
参考図書				
適宜紹介する				
備考				
小テストに対するフィードバック(解説)は授業内に行います。質問等がある場合は、授業終了後やオフィスアワーを積極的に活用して下さい。				

授業科目名		担当教員		
地域理学療法学		堀 信宏		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	2単位(30時間)
開講形態				
講義				
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 地域で生活を行う障害者は身体機能だけでなく、生活環境やキーパーソンの有無、医療・福祉サービスの可否などの要因により、生活の質(QOL)が異なってくる。地域理学療法学では障害を持つ方の在宅生活を様々な視点から検討する。各種サービスや保険といった地域理学療法に密着した情報についても学習する。施設、病院から退所・退院した患者さんにとって必要な環境整備、家族指導、諸制度の有効活用などについて学ぶ。後半は「在宅生活」をKeywordとした症例検討を実施する。</p> <p><学修の到達目標> 各種施設や、サービスの内容について理解する。将来就職先として「どのような施設・サービスで、どのような業務を行うのか」を知る理学療法士として疾患の特性を考慮し、様々な疾患について在宅生活についてディスカッションを行う。思考過程の修得を目指します。</p> <p>各種施設や、サービスの内容について理解する。将来就職先として「どのような施設・サービスで、どのような業務を行うのか」学ぶ。疾患の特性を考慮し、様々な疾患について在宅生活についてディスカッションを行う。思考過程の修得を目指す。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 主に高齢者が対象となります。高齢者機能障害学で高齢者の特徴を復習しておくこと。 <必要時間> 各回30分</p>		<p><内容> 前半は介護保険のしくみや各サービスなどを学び、後半は高齢者の在宅生活を検討する。整理に努めておくこと。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	地域リハビリテーションの概念・定義			
2	地域リハビリテーションの広がり和社会的背景、障害児・者施策の推移：障害者総合支援法			
3	地域包括ケアシステムと地域連携			
4	介護保険制度			
5	病期と回復期リハビリテーション病棟、療養病床			
6	介護保険下の入所サービスの展開、施設のリスクマネジメント			
7	介護保険下の通所サービス、訪問における理学療法の展開			
8	訪問のリスクマネジメント			
9	短期入所施設			
10	症例検討1：パーキンソン病の在宅生活			
11	症例検討2：脊髄小脳変性症の在宅生活			
12	症例検討2：脊髄小脳変性症の在宅生活			
13	症例検討3：リウマチ疾患の在宅生活			
14	症例検討4：筋ジストロフィー症の在宅生活			
15	地域における健康増進、生活者としての対象者			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
筆記試験100%				
使用教科書				
標準理学療法学 地域理学療法学 / 牧田光代編集.--第4版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-02851-6				
参考図書				
地域リハビリテーション論Ver5(三輪書店) シンプル理学療法シリーズ高齢者理学療法学テキスト(南江堂)				
備考				
症例検討では障害者が在宅生活を送るために何が必要なのかを考えます。「自分が担当者だったら・・・」という思いで臨んで下さい。 積極的な参加を期待する。				

授業科目名		担当教員		
生活環境論		植木 努		
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	2単位(30時間)
授業概要・学修の到達目標				
<p><概要> 理学療法士の役割は障害を治療するだけではありません。障害者の自立・社会参加を促す為には、そうした人々を取り巻く生活環境を整える必要があります。そのため障害や疾病を有する人の健やかな生活を支援するために生活と環境要因の関連性を理解し、理学療法士として必要な知識・技術を身につける事を目指す。実際の住宅環境における問題と改善案についてグループワークを実施し、検討内容をプレゼンテーションすることにより実態調査から派生する諸課題について多面的に思考する能力を身につける。</p> <p><学修の到達目標> 生活環境と日常生活動作(ADL)、生活の質(QOL)との関係性を理解する。 生活環境評価の手順や評価のポイントを理解する。 住宅改修における理学療法士の関わり方や考え方を理解し、臨床において適切な改善計画を立案できるようになる。</p>				
事前学習		事後学習		
<p><内容> 日常生活活動学・生活環境学(第5版)および配布プリントについて、授業計画に記載されている範囲を読んで、予習しておいてください。 <必要時間>各回30分</p>		<p><内容> 講義中に配布したプリントを用いて、学んだ知識の整理と確認を行ってください。 <必要時間>各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態
1	生活環境学の概念(p.222~225)			
2	生活環境と障害(p.225~230)			
3	生活環境の評価と改善計画(p.231~239)			
4	生活環境改善計画の実際[手すり・廊下](p.239~241)			
5	生活環境改善計画の実際[玄関・段差](p.239~241)			
6	生活環境改善計画の実際[階段・浴室とトイレに共通すること](p.241~234)			
7	生活環境改善計画の実際[トイレ・浴室](p.241~234)			
8	生活環境と法的諸制度[住宅改修に関連する介護保険制度](p.258~261)			
9	生活環境における実際(1)住宅環境調査			
10	生活環境における実際(2)住宅環境調査			
11	生活環境における実際(3)改善計画(グループワーク)			
12	生活環境における実際(4)改善計画(グループワーク)			
13	住宅環境調査結果および改善計画プレゼンテーション			
14	住宅環境調査結果および改善計画プレゼンテーション			
15	生活環境を支える福祉・リハビリテーション関連用具(p.283~292)			
	定期試験(筆記)			
評価基準・評価方法				
グループワーク参加度(5%)、プレゼンテーション内容(5%)、筆記試験(90%)				
使用教科書				
標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 / 鶴見隆正ほか編集...第5版--医学書院, 2017年, ISBN978-4-260-03256-8				
参考図書				
授業中にプリントを配布します。				
備考				
改善計画プレゼンテーションにおいては発表後にフィードバックを行う。その他質問があるときはいつでも受け付ける。				

授業科目名		担当教員			
臨床実習（基礎）		堀 信宏・長谷部 武久・曾田 直樹・河合 克尚・大場 かわり・田島 嘉人・石田 裕保・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努（代表教員 堀 信宏）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	1年 後学期	1単位(45時間)	実習
授業概要・学修の到達目標					
<p>< 概論 > 臨床の理学療法に触れる初めての学外臨床実習で、1年次科目の補完授業として2回実施する。前学期では理学療法士の役割、責任、医療人としてのマナーを経験する。後学期では理学療法士の職能について障害者との関わりを中心に考えるほか、患者に対する検査の一部を体験するなど、これから学ぶ専門的学習に向けての準備とする。</p> <p>< 学修の到達目標 > 実習を通じて自らの適性について考える機会とするほか、自らの経験を整理し理学療法士に対する興味や職業意識を培う。</p>					
事前学習			事後学習		
<p>< 内容 > 「生理学演習」で学んだ血圧測定、脈拍測定、「基礎運動学」で学んだ正常歩行の復習 < 必要時間 > 各回30分</p>			<p>< 内容 > 理学療法士の職業意識を高める。正常歩行や正常動作について知識を整理するほか、担当症例の動作について復習する。 < 必要時間 > 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報などの指導を行う。				
	前学期：学外施設で理学療法業務を見学し自らの適性や施設における理学療法の位置づけについて考える。（1日間）				
	後学期：学外施設で、医療従事者として望ましいコミュニケーション、立ち居振る舞いについて考え実践する。担当症例への問診や視診を通じて障害を持つことについての考えを深める。（5日間）				
	（課題内容：担当症例の歩行の模倣と文章化、血圧・脈拍測定、専門用語についての学習）				
	実習報告会：レジュメを作成し発表を行う。学生間で意見交換を実施する。				
評価基準・評価方法					
担当実習指導者の評定（臨床実習評価表を用いる）の結果、学内での実習後症例検討会の内容を基に学内で認定する。					
使用教科書					
臨床実習要項（配布） 1年次に使用した教科書全般					
参考図書					
備考					
社会（施設）での実習となります。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なることを意識し注意して下さい。実習はケージー服を着用します。					

授業科目名		担当教員			
評価実習前セミナー		曾田 直樹・河合 克尚・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努 (代表教員 曾田 直樹)			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> 評価実習前セミナーでは小グループに分かれ、教員がファシリテーターとして、学生の主体性を持った学習を奨励していく。その中で理学療法評価の意義を理解し、特定の疾患に限らず広範囲に用いられる理学療法評価の基本的な検査・測定手技・移乗介助および評価の記載方法を習得する。また講義では、グループワークやディスカッション、ディベートを活用し学びを深めていく。</p> <p><学修の到達目標> 患者像から歩行分析、文章化、評価項目の抽出、統合と解釈の一連の流れの学習 基本的な検査・測定手技および評価の記載方法を習得する。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 今までに学んだ評価方法や疾患と障害の関係を復習する。 <必要時間> 各回 60分</p>			<p><内容> 学修した理学療法評価の方法とその意義を理解する。 <必要時間> 各回 60分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
1	バイタルサイン・問診・コミュニケーション		全員		
2	四肢長・周径測定		全員		
3	関節可動域測定		全員		
4	徒手筋力検査		全員		
5	深部反射・病的反射検査		全員		
6	表在・深部覚検査・痛みの評価		全員		
7	整形疾患の検査		全員		
8	筋緊張検査		全員		
9	平衡機能検査		全員		
10	失調症検査		全員		
11	運動麻痺検査		全員		
12	高次脳機能検査		全員		
13	移乗介助 人工股関節患者		全員		
14	移乗介助 対麻痺・四肢麻痺患者		全員		
15	動作介助 片麻痺患者		全員		
評価基準・評価方法					
評価基準および評価方法：症例レポート(80%)、知識(口頭試問)、実技試験(10%)、実習評価表での評価(5%)、グループ学習の参加度(5%)					
使用教科書					
理学療法評価学 / 松澤 正 / 江口 勝彦.--第6版--金原出版, 2018年, ISBN978-4-307-75054-7 理学療法評価学 / 市橋則明. 文光堂, 2016年, ISBN978-4-8306-4537-2					
参考図書					
備考					

授業科目名		担当教員				
臨床実習（評価）		堀 信宏・長谷部 武久・曾田 直樹・河合 克尚・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努（代表教員 堀 信宏）				
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態	
カリキュラムマップを参照してください。		必修	2年 後学期	3単位(135時間)	実習	
授業概要・学修の到達目標						
<p><概要> 臨床実習は臨床実習指導者の指導の下で基本的な評価方法を修得する。具体的には各検査の実施、検査結果を解釈し問題点抽出、ゴールの立案までの過程を実践する。また、適切な記録、指導者への報告・連絡・相談といった理学療法士として必要な資質（態度）を症例の評価を通じて学んでいく。</p> <p><学修の到達目標> 実習終了後に報告会を行い、未経験の症例についても知見を広げると共に、様々な視点に基づく問題解決法獲得を目指す。</p>						
事前学習			事後学習			
<p><内容> 運動器系検査法，神経系検査法，動作・画像解析学，理学療法評価学演習で学んだ各評価方法の復習 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 各症例から得た検査結果を基に，どのような問題点が浮かび上がるのか，「検査結果 問題点」までのプロセスを習得する。また日々の実習で疑問に感じたことや分からなかったことについて，自己学習を進める。 <必要時間> 各回30分</p>			
回	授業計画			到達目標	担当	形態
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的，手順，心得，マナー，感染症予防，					
	個人情報などの指導を行う。					
	4週間の学外実習を実施する。					
	（課題内容：担当症例に関する情報収集，実習指導者の指導・監督下での検査・測定					
	の実施，基本動作の介助）					
評価基準・評価方法						
担当実習指導者の評定（臨床実習評価表を用いる）の結果，学内での実習後症例検討会の内容を基に学内で認定する。必要に応じ，実習に必要なと思われる知識，技術の確認テストを実施し，判定に加える。						
使用教科書						
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用した教科書全般						
参考図書						
備考						
社会（施設）での実習となります。身嗜み，言葉使い，規則などが学内とは異なることを意識し注意して下さい。実際に障害者の方に接する機会が増します。安全管理，専門職として取るべき態度などは，実習要件として重視します。						

授業科目名		担当教員			
臨床実習（総合前期）		堀 信宏・長谷部 武久・曾田 直樹・河合 克尚・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努（代表教員 堀 信宏）			
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 前学期	7単位(315時間)	実習
授業概要・学修の到達目標					
<p><概要> これまで学んだ基本的な評価方法を用い、理学療法計画立案、様々な医療現場での活動参加を実践する。また、必要に応じた理学療法計画の変更、他部門からの情報収集、記録・報告、医療従事者としての適切な人間関係の構築等、より臨床的な思考過程や実践的な内容を臨床実習指導者の下で学ぶ。</p> <p><学修の到達目標> 医療専門職として責任ある態度・行動が取れるようになることを目標とする。</p>					
事前学習			事後学習		
<p><内容> 運動器系検査法、神経系検査法、動作・画像解析学、理学療法評価学演習での評価、各障害学での知識、技術、思考過程を復習する。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 「検査結果 問題点」までのプロセスに加え、予後予測、リスク管理、治療法について知識を整理し、次回の実習に備える。また日々の実習で疑問に感じたことや分からなかったことについて自己学習を進める。 <必要時間> 各回30分</p>		
回	授業計画	到達目標	担当	形態	
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、個人情報などの指導を行う。				
	7週間の学外実習を実施する。				
	（課題内容：担当患者などの情報収集、実習指導者の指導・監督下での検査・測定の実施、実習指導者の許可・監督下における理学療法計画の実施、治癒過程に応じた計画の変更）				
評価基準・評価方法					
担当実習指導者の評定（臨床実習評価表を用いる）の結果、学内での実習後症例検討会の内容を基に学内で認定する。必要に応じ、実習に必要なと思われる知識、技術の確認テストを実施し、判定に加える。					
使用教科書					
臨床実習要項（配布） 1・2年次に使用したテキスト全般					
参考図書					
備考					
社会（施設）での実習となります。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なることを意識し注意して下さい。実際に障害者の方に接する機会が増します。安全管理、専門職として取るべき態度などは、実習要件として重視します。					

授業科目名		担当教員				
臨床実習（総合後期）		堀 信宏・長谷部 武久・曾田 直樹・河合 克尚・大場 かおり・田島 嘉人・石田 裕保・辻 圭一・藤橋 雄一郎・植木 努（代表教員 堀 信宏）				
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連		必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態	
カリキュラムマップを参照してください。		必修	3年 後学期	7単位(315時間)	実習	
授業概要・学修の到達目標						
<p><概要> 施設・病院等で担当症例のゴール設定までの理学療法評価を行い、臨床実習指導者の下、理学療法計画を作成し、実施する。また様々な臨床現場での活動に参加する。これまで学んだ知識、技術、臨床的な思考過程を更に発展させる機会とする。</p> <p><学修の到達目標> 医療専門職として責任ある態度・行動が取れるようになることを目標とする。</p>						
事前学習			事後学習			
<p><内容> 運動器系検査法、神経系検査法、動作・画像解析学、臨床実習での評価、各障害学での知識、技術、思考過程を復習する。 <必要時間> 各回30分</p>			<p><内容> 同じ疾患であっても、年齢、性別、障害の程度が異なる事で、問題点、リスク管理などが変化することを想定し、多様な思考過程を得る。 <必要時間> 各回30分</p>			
回	授業計画			到達目標	担当	形態
	実習前オリエンテーション(学内):実習の目的、手順、心得、マナー、感染症予防、					
	個人情報などの指導を行う。					
	7週間の学外実習を実施する。					
	(課題内容:担当患者などの情報収集、実習指導者の指導・監督下での検査・測定の実					
	施、実習指導者の許可・監督下における理学療法計画の実施、治癒過程に応じた計画の					
	変更)					
評価基準・評価方法						
担当実習指導者の評定(臨床実習評価表を用いる)の結果、学内での実習後症例検討会の内容を基に学内で認定する。必要に応じ、実習に必要なと思われる知識、技術の確認テストを実施し、判定に加える。						
使用教科書						
臨床実習要項(配布) 1・2年次に使用したテキスト全般						
参考図書						
備考						
社会(施設)での実習となります。身嗜み、言葉使い、規則などが学内とは異なることを意識し注意して下さい。実際に障害者の方に接する機会が増えます。安全管理、専門職として取るべき態度などは、実習要件として重視します。						